

令和7年度（令和6年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

令和7年9月

苫小牧市教育委員会

Tomakomai City Board of Education



目 次

はじめに	1
1 教育委員会の活動状況	2~4
(1) 会議の開催状況	
(2) 市長との連携	
(3) 教育委員の活動状況	
(4) その他	
2 計画の体系	5~7
3 主要施策等の点検・評価	8~40
方針1 社会で生きる学びの推進	
1 確かな学力の育成	
2 これからの時代に求められる資質・能力の育成	
3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成	
4 体力向上・健康教育の充実	
5 特別支援教育の充実	
方針2 学校・家庭・地域の思いをつむぐ体制の確立	
6 学校段階間の連携・接続の推進	
7 不登校児童生徒への支援の充実	
8 学校と地域の連携・協力の推進	
9 学びのセーフティネットの構築	
10 教育環境・学校施設・設備の充実	
方針3 すべての人が学び続けることで活躍できる社会の実現	
11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり	
12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり	
13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり	
4 点検・評価に関する意見等	41~

資 料 編

はじめに

1 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され(平成20年4月1日施行)、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことが義務付けられました。

事務の点検・評価は、教育委員会が事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的としています。

2 対象

令和6年度実施の学校教育推進計画及び生涯学習推進基本計画に掲げられた主な施策等及び教育委員会の会議など教育委員会自体の活動状況を対象としました。

3 方法

■教育委員会の活動状況の点検・評価

教育委員会の会議の開催状況など活動状況を明らかにし、今後の活動の改善を図ります。

■主要施策等の点検・評価

主な施策等に対する具体的な取組内容、推進指標の進捗をまとめ、成果と課題を明らかにした上で、取り組んだ成果及び今後の方向性について評価しました。

■学識経験者からの意見等の活用

教育委員会の活動状況、主要施策等の点検・評価について客観性を確保し、今後の取組に向けた活用を図るため、教育に関して学識経験を有する方から意見や助言をいただきました。

1

教育委員会の活動状況

(1) 会議の開催状況

苫小牧市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月第4金曜日に定例委員会を開催しています。また、案件に応じ臨時委員会を開催しています。

この会議では、教育長及び委員4名が教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定などさまざまな案件について審議しました。

項目	活動実績	
開催回数	定例会	12回（毎月1回）
	臨時会	0回
審議事項	議案案件	30件（うち非公開 13件）
	その他案件	32件（うち非公開 15件）
傍聴状況	傍聴人数	延べ30人
会議録	公開請求	0件

※開催日、議案内容については資料1（資料編1～2ページ）に掲載

○合議制・公正公平性・継続安定性について

- ・教育行政執行方針の策定にあたる事務局からの提案に対し、貴重な意見をもらい審議したほか、苫小牧市立小中学校規模適正化地域プラン【勇払地区】や、部活動地域展開（移行）に係る説明会の開催などの案件において、各委員の視点から活発に議論しました。
- ・教科用図書採択など重要な案件については公正公平性を保ち審議を進めました。

(2) 市長との連携

市長交代に伴い、新市長の教育に対する思いを確認し、現在の教育大綱を継続することを決定しました。

市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図るため、総合教育会議を設置するほか、さまざまな取組を行っています。



開催日	内容
1月24日(金)	令和6年度 第1回苫小牧市総合教育会議 <ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧市教育大綱について ・本市教育における諸課題について 夢実現教育 学校規模適正化 不登校児童生徒への支援の充実について

○市民意見の反映について

【保護者等への各種調査】

■部活動の地域展開について

市内各中学校区で、部活動の地域移行にかかる保護者説明会を開催し、今後の部活動の在り方や各地区での設置の見通しなどを説明し、意見を交わしました。

■学校給食費改定に伴うアンケートについて

令和7年度からの給食費改定に伴い、値上がりに対する考えや給食の量・回数などについてアンケート調査を実施し、給食費の改定と合わせ、献立の充実に向けた意見を伺いました。

【町内会や地域の方からの意見】

■勇払地区義務教育学校移行について

学校運営協議会^{※1}への説明や意見交換を経て、基本的な方針を示す地域プランを策定し、地域説明会にて、本プランを説明し、地域の方々と意見を交わしました。



(3) 教育委員の活動状況

教育委員は、学校教育及び社会教育に関する行事に出席するほか、各学校の教育成果や課題などを把握するため、学校訪問を行っています。また、教育委員会連絡協議会等の研修や講演会に参加することで、他市町村の情報収集や教育行政に関する諸問題の研究に努めています。

項目	活動実績	
学校等訪問	4校	延べ12人
研修会参加	2回	延べ8人
行事・式典等への参加	12回	延べ27人

※開催日、行事内容等の詳細については資料2（資料編3ページ）に掲載

○学校等訪問による現状や課題などの把握について

- ・ HISAE 日本語学校を訪問し、本市で日本語を学ぶ外国人の現状の把握や授業を参観して意見交換を行い、地域に根差し、多文化共生社会の実現にも貢献する学校づくりについてお話を伺いました。
- ・ 小・中学校で実施されたゼロカーボン出前講座にて、地球温暖化の状況やゼロカーボンにつながる取組について、生徒が熱心に耳を傾ける様子を参観しました（苫小牧東中）。



※1 保護者や地域住民等により構成され、学校運営の基本方針の承認や教育活動について意見を述べるができる組織。

○各種行事参加による現状把握について

- ・糸井小学校開校50周年記念式典及び泉野小学校開校40周年記念式典に出席したほか、樽前小学校新校舎内覧会に参加しました。
- ・美術博物館特別展オープニングセレモニーや全国高等学校選抜アイスホッケー大会開会式などに出席したほか、「はたちを祝う会」などの行事に参加しました。



R6. 7. 18 樽前小学校新校舎内覧会



R6. 8. 22-23 都市教委連総会（北見市）

○他自治体からの情報収集について

- ・北見市で開催された北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会に出席し、インクルーシブ教育に向けた取組についてをテーマにした分散会では、各委員が、本市の児童生徒の実態に合わせた交流及び共同学習の実施や、障がい理解教育の推進のほか、教員に対する特別支援に関する研修状況を紹介しますなど他市との情報交換を行いました。

(4) その他

- 令和6年度北海道都市教育長会春季定期総会が、本市で16年ぶりに開催となり、道内35市の教育長が出席し、北海道及び北海道教育委員会に対する要望事項などを決定したほか、児童生徒用のタブレット端末更新など、教育行政に関する課題等について、自由闊達な意見交換がなされました。



R6. 5. 15 都市教育長会総会

○規則等の制定状況

資料3（資料編4ページ）に掲載。

○表彰制度

教育委員会は、本市の文化の向上発展に関し実績の顕著な個人、団体を表彰し文化の普及振興を図っています。

表 彰	令和6年度 受 賞 者（敬称略）
苫小牧市文化賞	大坪 翠山
苫小牧市文化奨励賞	かんばやし まなぶ

2

計画の体系

■目的

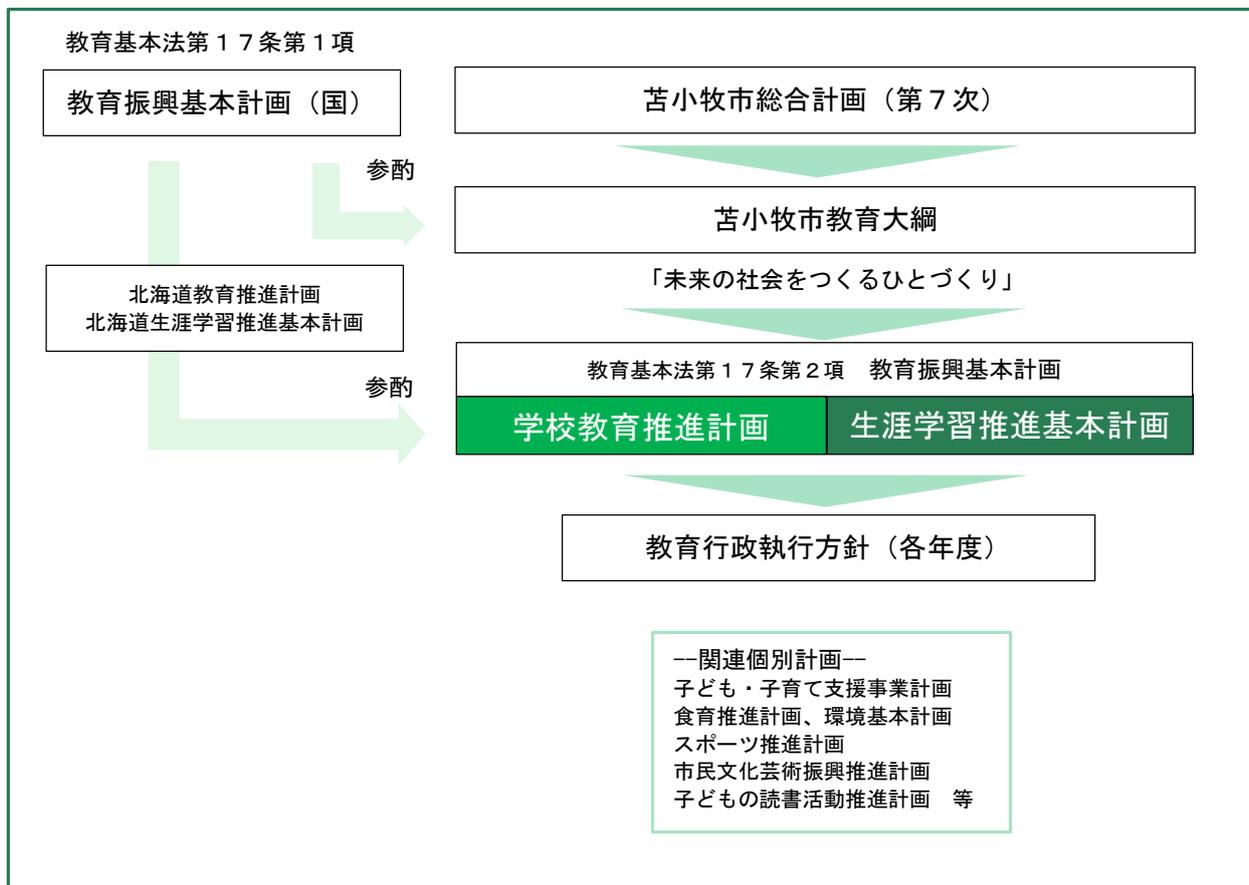
苫小牧市教育大綱に掲げる「未来の社会をつくるひとづくり」の基本理念に基づき、「苫小牧市学校教育推進計画」及び「苫小牧市生涯学習推進基本計画」は、学校教育や地域社会を取り巻く社会情勢の変化とそれに伴い生じる様々な課題に対応した施策を計画的に推進するために策定するものです。

両計画により、子どもたち、地域の人々が互いに協働しながら、持続可能な社会、郷土苫小牧の未来の担い手として成長するために、義務教育の更なる充実、連帯と共生の豊かな心と活力にあふれる人を育てることを目指します。

■計画の位置づけ

本市教育の基本計画のうち、「苫小牧市学校教育推進計画」は、学校教育分野に関する計画、「苫小牧市生涯学習推進基本計画」は、生涯学習分野に関する計画であり、両計画を教育基本法第17条第2項の「地方公共団体の定める教育の振興のための施策に関する基本的な計画」と位置付けます。

「苫小牧市学校教育推進計画」は、これまで単年度で策定していた「学校教育力向上マスタープラン」に替えて、国の教育振興基本計画や北海道教育推進計画を参酌し、令和5年度に新たに策定したものです。



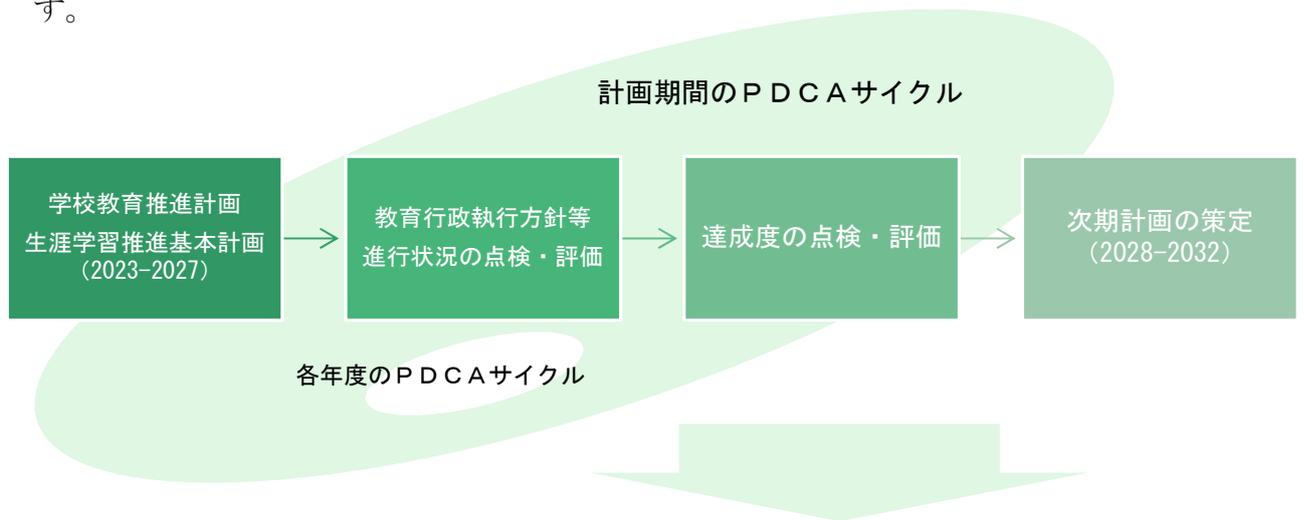
■計画期間

計画の期間は「苫小牧市総合計画」、「苫小牧市教育大綱」と同じ5年間とし、各年度の教育行政執行方針を策定して具体的な取組を実施します。



■点検・評価

施策の進行状況を点検・評価し、次年度の教育行政執行方針等に反映することで施策を推進します。社会情勢の変化や各学校の実情などを踏まえて進捗を管理調整し、計画の最終年度（令和9年度）には、「苫小牧市総合計画」の指標となる市民の満足度やそれぞれの指標の達成度を踏まえて次期計画を策定します。



苫小牧市総合計画における学校教育・生涯学習・文化芸術の指標「市民の満足度」

指 標	基準年度(R3)	目標値(R9)
「小学校・中学校において充実した教育が受けられること」への市民満足度（％）	66.5	70.0
「生涯をととして、様々な学習をする機会があること」への市民満足度（％）	63.8	65.0
「音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること」への市民満足度（％）	54.2	60.0

本市の目指す基本理念「未来の社会をつくるひとづくり」の理念を実現するため、「社会で生きる学びの推進」、「学校・家庭・地域の思いをつむぐ体制の確立」及び「すべての人が学び続けることで活躍できる社会の実現」を柱に13の施策項目を設定します。

学校教育推進計画 「生きてはたらく力を身に付けた15歳の苫小牧っ子」	
方針1 社会で生きる学びの推進	1 確かな学力の育成
	2 これからの時代に求められる資質・能力の育成
	3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成
	4 体力向上・健康教育の充実
	5 特別支援教育の充実
方針2 学校・家庭・地域の思いをつむぐ体制の確立	6 学校段階間の連携・接続の推進
	7 不登校児童生徒への支援の充実
	8 学校と地域の連携・協働の推進
	9 学びのセーフティネットの構築
	10 教育環境・学校施設・設備の充実
生涯学習推進基本計画 「すべての人が学び続けることで活躍できる社会の実現」	
方針3 すべての人が学び続けることで活躍できる社会の実現	11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり
	12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり
	13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

■点検・評価について

令和6年度に実施した学校教育推進計画及び生涯学習推進基本計画にある主な施策に対する具体的な取組内容をまとめ、成果を明らかにした上で評価し、今後の方向性を示しています。

■具体的な取組

計画で掲げた方向性に対して、令和6年度で取り組んだ具体的な取組を記載しています。

【基本方針1】 社会で生きる学びの推進

施策1 確かな学力の育成

■具体的な取組

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(1) 確かな学力を育むための授業改善

- ・苫小牧市における授業改善策の3つの柱に基づいて、授業改善委員会による授業公開の実施（年5回）及び授業改善L e a f による情報発信（年5部）を行いました。
- ・子どもが学びの中心となり、各教科の資質・能力を確実に育成することができるよう、苫小牧っ子学力UP!ハンドブック（グリーン）を作成し、授業づくりの方向性や具体例を示しました。
- ・授業改善研究会による授業改善に係る実践的研修会（延べ184人）及び市教育研究所による授業改善に係る研修講座（延べ176人）を開催しました。



【実践的研修講座】

(2) 実践研究指定校と教職員への研修

- ・小・中学校各2校を実践研究指定校として、「子どもが主語の4つの共通取組場面」や「苫小牧市共通取組事項」「学びに向かう力を高める取組」を位置づけた授業づくりについて、公開授業や実践成果を発信しました。
- ・教育先進地への視察（京都市立下京砂小学校、京都市立下京中学校）を実施し、その成果を各学校の研修担当者向け研修会や授業改善に係る校内研修会で情報提供しました。

2 学力向上に向けた検証改善サイクルの確立

- (1) 教育課程の実施状況を確認してその改善を図る検証改善（PDCA）サイクルの充実
 - ・すべての中学校区において、「Tanakomaki A11-9」推進基本方針に基づき、小中合同研修会や授業公開を行い、指導内容の系統性の共有に努め、小中9年間を見通した育成を目指す資質・能力について学校段階間の共通理解を促し、小中連携による指導の充実を図りました。

- ・全国学力・学習状況調査の結果をもとに、各学校の個別課題を整理し、算数・数学科における授業改善ポイントを示した資料を作成・提供しました。

- ・すべての小・中学校に対し学校訪問を行い、教育課程の改善について指導主事による指導助言を行うとともに、授業改善策である4つの共通取組場面について説明・助言を行い、各校で授業改善に向けた共通理解が進むよう支援しました。



【苫小牧市における授業改善計画】

(2) 家庭学習の取組

- ・家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくー」で、家庭学習習慣の重要性や子どもが自分で決める場面を取り入れることの意義を発信し、自己決定力を育む取組を家庭に啓発しました。
- ・苫小牧市統一学力検査の結果分析を基に、学年・教科ごとの課題改善に向けた家庭学習のポイントや、自主学習の取組例・やる気を引き出すヒントを「家庭学習アイデア例」として示し、ホームページや市のFacebookで発信することで、家庭学習や自主学習の充実を図りました。
- ・11月を「親子読書」強調月間として設定し、周知用カットを配付して啓発を図りました。また、中央図書館では、レッドイグルズ北海道の選手によるおすすめ本の展示や関連パネル展を実施し、あわせて推薦図書リストの限定配布も行いました。各学校では「親子で読みたい本」の展示、読書カードや読書企画など多様な取組を推進し、家庭での読書習慣の定着を図りました。

■評価

推進指標を考察、主な評価について記載しています。

■今後の取組

令和6年度の取組から見えた課題から、今後の取組の方向性やねらい等を記載しています。

※小中学校の記載には、義務教育学校（前期課程及び後期課程）を含みます。

■推進指標

各施策の達成状況を把握するための指標です。※R5策定の計画による指標ですが、社会情勢の変化や学校現場の実情と合わない場合、指標の見直しなど柔軟に対応することとしています。

■推進指標

指標	R4	R5	R6	目標値
全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国以上の教科数（教科）	小 0	0	0	2
「話し合う活動を通じ、自分の考えを深めることなどができている」という質問に対し「10分以上」と回答した児童生徒の割合（％）	小 82.6	82.5	82.0	85
「授業以外の1日1時間以上勉強する」と回答した児童生徒の割合（％）	小 64.6	63.4	61.3	85
「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか？」という質問に対し「10分以上」と回答した児童生徒の割合（％）	小 57.3	58.0	—	85
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を「よく行った」と回答した学校の割合（％）	小 47.8	30.4	30.4	100
	中 20.0	20.0	20.0	100

■評価

- ・全国学力・学習状況調査において平均正答率が全国以上の教科数は0だったが、小学校国語科、算数科及び中学校数学科において前年比で上昇が見られた。
- ・「授業以外の学習時間」が小・中学校ともに減少傾向にあることから、家庭学習の目的や取り組み方に課題が見られる。
- ・習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善は依然課題が見られることから、苫小牧市の授業改善策の一層の浸透が求められる。

■今後の取組

- 1 苫小牧っ子学力UP!ハンドブックを活用し、全教職員が「苫小牧市における授業改善策」について理解を深め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進むよう支援します。
- 2 教職員の資質・能力の向上をめざすために、実践的研修講座をはじめ、各種研修会の機会を充実させます。
- 3 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに、国語科の授業改善に向けた動画資料を作成・提供するとともに、これらを校内研修で効果的に活用できるよう支援します。
- 4 家庭学習の質を高めるため、現在の「とまこまい学びの3か味」を見直し、具体的な学習行動や家庭での役割をわかりやすく示した新版を作成・周知し、家庭との連携を図りながら、子どもが自ら学習内容や学習方法を自己決定し、学び取る力の育成を目指します。

トピックス

■苫小牧っ子学力UP!ハンドブック（グリーン）の発行



苫小牧っ子学力UP!ハンドブック（グリーン）

学びの質的変換・向上を図るために、苫小牧市は授業改善策として「学びに向かう力を高める取組」「共通取組事項」「共通取組場面」の3つの柱を示しました。その中でも、「共通取組場面」について理解を深め、授業改善の参考となるようハンドブック（グリーン）を作成しました。今後は、各学校における校内研修等で積極的に活用されるよう周知を図ります。

■トピックス

令和6年度の取組の中で代表的なものを記載しています。

施策1

確かな学力の育成

■具体的な取組

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(1) 確かな学力を育むための授業改善

- ・苫小牧市における授業改善策の3つの柱に基づいて、授業改善研究委員会による授業公開の実施（年5回）及び授業改善Leafによる情報発信（年5部）を行いました。
- ・子どもが学びの中心となり、各教科の資質・能力を確実に育成することができるよう、苫小牧っ子学力UP!ハンドブック（グリーン）を作成し、授業づくりの方向性や具体例を示しました。
- ・授業改善研究委員会による授業改善に係る実践的研修会（延べ184人）及び市教育研究所による授業改善に係る研修講座（延べ176人）を開催しました。



【実践的研修講座】

(2) 実践研究指定校の実践と教職員への研修

- ・小・中学校各2校を実践研究指定校として、「子どもが主語の4つの共通取組場面」や「苫小牧市共通取組事項」、「学びに向かう力を高める取組」を位置づけた授業づくりについて、公開授業や実践成果を発信しました。
- ・教育先進地への視察（京都市立下京渉成小学校、京都市立下京中学校）を実施し、その成果を各学校の研修担当者向け研修会や授業改善に係る校内研修会で情報提供しました。

2 学力向上に向けた検証改善サイクルの確立

(1) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図る検証改善（PDCA）サイクルの充実

- ・すべての中学校区において、「Tomakomai All-9」推進基本方針に基づき、小中合同研修会や授業公開を行いました。また、指導内容の系統表を共有するなど、小中9年間を見通した育成を目指す資質・能力について学校段階間の共通理解を促し、指導の充実を図りました。
- ・全国学力・学習状況調査の結果をもとに、各学校の個別課題を整理し、算数・数学科における授業改善ポイントを明示した資料を作成・提供しました。
- ・すべての小・中学校に対し学校訪問を行い、教育課程の改善について指導主事による指導助言を行うとともに、授業改善策である4つの共通取組場面について説明・助言を行い、各校で授業改善に向けた共通理解が進むよう支援しました。



【苫小牧市における授業改善策】

(2) 家庭学習の取組

- ・家庭と学校をつなぐ情報紙「ほ一む&すくーる」で、家庭学習習慣の重要性や子どもが自分で決める場面を取り入れることの意義を発信し、自己決定力を育む取組を家庭に啓発しました。
- ・苫小牧市統一学力検査の結果分析を基に、学年・教科ごとの課題改善に向けた家庭学習のポイントや、自主学習の取組例・やる気を引き出すヒントを「家庭学習アイデア例」として示し、ホームページや市のFacebookで発信することで、家庭学習や自主学習の充実を図りました。
- ・11月を「親子読書」強調月間として設定し、周知用カットを配付して啓発を図りました。また、中央図書館では、レッドイーグルス北海道の選手によるおすすめ本の展示や関連パネル展を実施し、あわせて推薦図書リストの限定配付も行いました。各学校では「親子で読みたい本」の展示、読書カードや福袋企画など多様な取組を推進し、家庭での読書習慣の定着を図りました。

■推進指標

指 標		R4	R5	R6	目標値
全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国以上の教科数（教科）	小	0	0	0	2
	中	0	0	0	2
「話し合う活動を通じ、自分の考えを深めることなどができている」という質問に対し肯定的な回答をした児童生徒の割合（％）	小	82.6	82.5	82.0	85
	中	79.5	81.6	81.5	85
「授業以外に1日1時間以上勉強する」と回答した児童生徒の割合（％）	小	64.6	63.4	61.3	85
	中	65.5	61.7	60.6	85
「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問に対し「10分以上」と回答した児童生徒の割合（％）	小	57.3	58.0	—	85
	中	51.4	49.4	—	85
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を「よく行った」と回答した学校の割合（％）	小	47.8	30.4	30.4	100
	中	20.0	20.0	20.0	100

評価

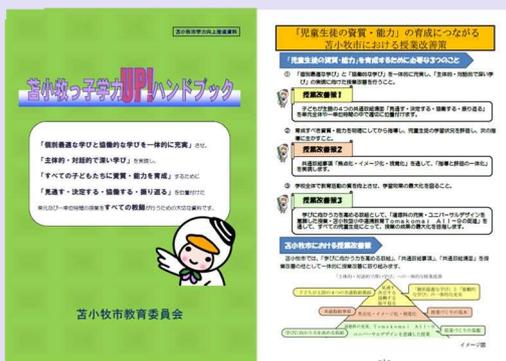
- ・全国学力・学習状況調査において平均正答率が全国以上の教科数は0だったが、小学校国語科、算数科及び中学校数学科において前年比で上昇が見られた。
- ・「授業以外の学習時間」が小・中学校ともに減少傾向にあることから、家庭学習の目的や取り組み方に課題が見られる。
- ・習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善は依然課題が見られることから、苦小牧市の授業改善策の一層の浸透が求められる。

■今後の取組

- 1 苦小牧っ子学力 UP!ハンドブックを活用し、全教職員が「苦小牧市における授業改善策」について理解を深め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進むよう支援します。
- 2 教職員の指導観の転換と資質・能力の向上を目指すために、実践的研修講座をはじめ、各種研修会の機会を充実させます。
- 3 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに、国語科の授業改善に向けた動画資料を作成・提供するとともに、これらを校内研修で効果的に活用できるよう支援します。
- 4 家庭学習の質を高めるため、「とまこまい学びの3か条」を見直し、具体的な学習行動や家庭での役割をわかりやすく示した新版を作成・周知します。また、家庭との連携を図りながら、子どもが自ら学習内容や学習方法を自己決定し、学び取る力の育成を目指します。

トピックス

■苦小牧っ子学力 UP!ハンドブック（グリーン）の発行



苦小牧っ子学力 UP!ハンドブック（グリーン）

学びの質的変換・向上を図るために、苦小牧市は授業改善策として「学びに向かう力を高める取組」「共通取組事項」「共通取組場面」の3つの柱を示しました。その中でも、「共通取組場面」について理解を深め、授業改善の参考となるようハンドブック（グリーン）を作成しました。各学校の授業研究の際に、指導主事からの指導・助言の内容と連動して取り扱うことで、教職員の理解深化と実践化につなげていきます。

施策2

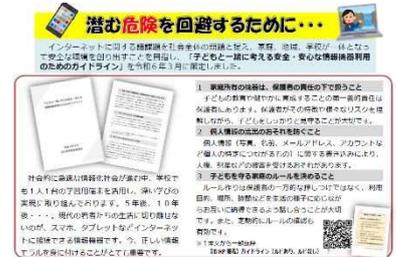
これからの時代に求められる資質・能力の育成

■具体的な取組

1 ICT活用による個別最適で協働的な学びの実現

(1) 児童生徒の情報活用能力の育成

- ・授業改善研究委員会において、授業におけるタブレット端末の効果的な日常活用方法を研究し、これらの実践例をまとめた「ICT活用Leaf」による情報発信を行いました。
- ・家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくー」を作成し、子どもがICT機器を使う際の保護者の見守りの重要性や個人情報情報の管理、家庭内ルールのお話し合いなどについて啓発し、家庭・地域・学校が連携して安全な利用環境を整えることの重要性を周知しました。



【ほーむ&すくー第46号】

(2) 教員のICTの効果的な活用に向けた取組の充実

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、授業改善に役立つICT活用をテーマにした実践的な研修講座を実施しました。Microsoft Teams のアプリやPadlet、Miro、CANVAなどのツールを取り上げ、効果的な活用法を紹介し、教員への理解促進を図りました。
- ・市内4つの小学校では、オンラインで台湾の小学校と接続し、互いの文化を題材としたクイズや小グループでの英会話交流を実施しました。さらに、道内の他の小学校と接続し、オンラインで地域の特色や学校生活を紹介し合う交流も行いました。

2 外国語教育の充実と国際理解教育の推進

(1) 外国語教育の充実

- ・市内全小・中学校に配置した14名のALTは、児童生徒の英語への興味・関心を高め、授業中の発話量の増加や活動への積極的な参加を促すことに大きく寄与しました。
- ・外国語研究委員会がCAN-DOリスト^{※2}を取り入れた授業を公開したほか、ALTの効果的な活用や、コミュニケーションに主軸を置いた言語活動の充実に関する研修会を行いました。協議では、ペア・グループ活動の工夫、ジェスチャーや実物を用いた指導方法、児童生徒の発話量を増やすための具体的な取組、ALTとのより効果的な関わり方について活発な意見交換が行われました。

(2) 異文化交流や多様な価値観に触れる機会の創出

- ・ALTを放課後児童クラブや幼稚園へ派遣し、英語に親しむ活動を実施しました。英語の歌やリズム遊び、ジェスチャーゲームなどを通じて、子どもたちが楽しみながら英語に触れ、自然に異文化に親しむ機会を提供しました。
- ・幼児から小学校高学年を対象に「イングリッシュカフェ」を実施しました。幼児には歌やゲーム、低学年には絵本の読み聞かせ、高学年にはグループワークや発表活動など、年齢やレベルに応じた内容で英語に親しみ、異文化理解の促進を図りました。



【イングリッシュカフェ】

※2 英語を使って実際にどのようなことができるようになるのか、その能力を記述したリスト。

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値	
ICT機器を活用した授業が「ほぼ毎日」行われたと回答した小・中学校の児童生徒の割合（％）	15.7	20.2	25.1	85	
児童生徒同士がやりとりする場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日」使用させていると回答した学校の割合（学校質問紙調査）（％）	7.8	16.4	22.1	85	
話し合う活動を通じ、自分の考えを深めることなどができていると回答した児童生徒の割合（％）	小	82.6	82.5	88.6	90
	中	79.5	81.6	86.5	90
「CAN-DOリスト」の学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合（％）	100	100	—	100	
中学校卒業段階で英検3級以上を取得又は英検3級以上の英語力を有すると思われる生徒の割合（％）	39.2	50.4	47.8	50	

評価

- ・ ICT活用では、研修や情報発信、ICT活用ハンドブックの実践事例を参考にした授業実践が推進されたことで教員の指導力が高まり、AIドリルの活用や学習成果の発表、意見整理などトータルの活用割合は76.3%と、児童生徒による日常的な活用が着実に広がっている。
- ・ 児童生徒のやりとりにおいてはICT活用が全てではなく多様な方法があることから目標値との開きはあるものの、発達段階や学習内容に応じて効果的な活用が増えつつある。
- ・ 外国語教育では、ALTの活用や国際交流の取組を通じて、児童生徒の英語への関心や学びに向かう意欲が向上するとともに、国際理解の深化が図られた。

■今後の取組

- 1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に向け、教員が授業で効果的にICTを活用する力を高めるため、実践的な研修講座を継続します。また、授業改善研究委員会や研究委嘱校による授業実践例や成功事例を発信します。
- 2 外国語教育推進アドバイザーによる研修の充実を図るとともに、公開授業や研修講座を通じて、ALTの効果的な活用やCAN-DOリストを取り入れた授業づくりを推進します。
また、令和7年度は複数名のALTとコミュニケーションを図る学習活動を多くの学校で実施し、英語による言語活動の充実を図るとともに、異文化理解をより一層深めていきます。

トピックス

■台湾の小学校と国際交流事業



台湾明湖小学校との対面交流の様子

大成小学校と北星小学校では、これまでオンラインで交流してきた台北市立明湖小学校の児童が来道し、対面での交流を行いました。大成小学校では、よさこい踊りや給食交流を、北星小学校では音楽を通じた親睦活動を実施しました。歓迎式典では、両校の代表児童が英語で歓迎の言葉を交わし、記念撮影では別れを惜しむ子どもたちの姿が見られるなど、子どもたちにとって、国際理解を深める貴重な機会となりました。

施策3

多様な価値を尊重する豊かな心の育成

■具体的な取組

1 道徳教育の推進・人権教育の充実

(1) 学校の教育活動全体を通じた組織的・計画的な道徳教育の推進

- すべての小・中学校の道徳教育推進教師を対象とした道徳教育の推進に係る研修会（36名参加）を実施し、道徳教育の重要性や道徳教育推進教師を中心とした学校教育全体で行う道徳教育推進の方法について理解を図りました。

(2) 道徳科の授業改善の取組の推進

- 道徳科の目標を踏まえた授業の在り方についての説明、指導案作りなどの演習、授業参観、授業実践などを通して、総合的、発展的に学べるよう研修を計画しました。道徳教育推進における教師個々の課題をとらえ、キャリアや役割に応じた授業力向上に資する研修を実施しました。
- すべての小・中学校において、多彩なテーマで「こころの授業」を実施することで、児童生徒が自らの生き方について多面的、多角的に考えを深める学習活動を推進することができました。

(3) 人権教育の充実

- 市教育研究所による、教職員向けの性教育に係る研修講座を開催しました。
- 各学校では、基本的人権の尊重や多様な性への理解等に関する出前講座を実施し、児童生徒に性に対する正しい知識や他者を尊重することについて考える機会の充実を図りました。



【道徳科の授業力向上パッケージ】

2 いじめ防止の取組の充実

(1) いじめの未然防止の促進

- いじめの予防のため、学校生活のあらゆる場面において児童生徒の様子を注意深く観察するとともに、教育相談体制を充実させ、児童生徒が安心して相談できる環境づくりに努めました。
- 定期的なアンケートを実施し、結果を分析し、早期の対応や未然防止策に活かしました。
- いじめ根絶に向けた児童生徒の取組を推進するため、「苫小牧市いじめ問題子どもサミット」を開催し、いじめ問題に対する意識を高め、各校の取組の充実につなげました。
- いじめの未然防止に向けた取組をより強化するため、いじめ問題対策評議員会を開催し、いじめ根絶対策事業等の施策について協議を行い、専門的な知見を取り入れた改善を図りました。

(2) いじめの早期発見・早期対応に向けた生徒指導體制の充実

- 学校いじめ対策組織の機能強化を図り、全教職員がいじめは重大な人権侵害であるとの認識の下、組織による早期発見を徹底するために、情報共有の円滑化や連携強化に努めました。
- スクールカウンセラーや心の教室相談員と連携し、専門的な視点を取り入れ、より効果的な対策を目指しました。
- 校内における相談体制の整備と並行し、児童生徒が悩みを相談できる窓口として「子ども専用悩みごと相談メール・相談電話」について児童生徒や保護者へ積極的に周知しました。

■推進指標

指 標		R4	R5	R6	目標値
「自分には、よいところがあると思う」児童生徒の割合（％）	小	79.6	80.0	81.1	85
	中	63.6	78.9	81.3	85
「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」児童生徒の割合（％）	小	73.9	76.7	75.7	85
	中	70.0	75.5	72.8	85
「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいる」児童生徒の割合（％）	小	84.8	86.9	92.3	90
	中	89.9	92.6	93.6	90
男女混合名簿を活用している学校数（校／全37校）		10	16	29	37
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合（％）	小	97.7	97.9	98.4	100
	中	97.2	97.3	97.5	100

評価

- ・ ころの授業の実施や道徳科の授業の充実により、自己を見つめたり、自分の考えが認められたりすることで、自己肯定感の高まりがみられた。
- ・ 組織的な早期発見・早期対応の仕組みは構築されつつあるが、いじめの根本的な解決を目指し、生徒の社会性や規範意識、他者への思いやりを育む教育活動の一層の推進が課題である。

■今後の取組

- 1 すべての小・中学校で、児童生徒の心を揺さぶり、よりよい生き方について本気で考え、議論する道徳科の授業の実現に向けて、教師個々の授業力向上に対応できるよう総合型研修を実施します。
- 2 「ころの授業」では、児童生徒が多様な視点で生き方について考えを深められるよう、福祉関係、性教育、男女協働参画等の幅広い領域からの講師派遣に努めます。教職員向け研修講座についても、多様性の理解、ジェンダー平等に係る内容の講座を実施します。
- 3 各学校におけるいじめアンケートの定期的な実施に加え、生徒の自己肯定感を高め、他者との良好な関係性を築くための取組を推進します。教育相談においては、生徒一人一人の状況に寄り添った丁寧な対応を心がけ、複数回のアンケートや観察を通じて生徒理解を深めます。

トピックス

■苦小牧市いじめ問題子どもサミット



いじめ問題子どもサミット
事後取組の様子

12回目を迎えた「苦小牧市いじめ問題子どもサミット」では、各小・中学校の児童会・生徒会のリーダーが集い、いじめ防止に向けた取組を交流しました。

交流の中で、互いを認め合い、良好な人間関係を構築するための具体的な方策について考えを深めることができました。

参加した児童生徒は、他校の取組を知り、自校の活動をさらに発展させるための新たな視点やアイデアを得ることができました。本取組により、いじめ防止に向けた課題や成功事例を共有することで、参加者全体の意識が高まり、いじめのない学校づくりに向けた主体的な行動を促す効果が期待されます。

施策4

体力向上・健康教育の充実

■具体的な取組

1 学校における体力・運動能力向上の取組の推進

(1) 運動機会の提供等による運動習慣の定着

- ・すべての学校で子どもたちが目標をもって積極的に運動するよう、体力テストの結果を踏まえた体力向上の取組を推進しました。
- ・家庭と学校をつなぐ情報誌「ほーむ&すくーる」で、家族で運動の楽しさを味わったり、運動習慣を身に付けたりすることができるよう、苫小牧市のスポーツイベントを紹介しました。



【体育エキスパート教員による巡回指導】

(2) 運動することが好きな子どもたちの育成を目指した体育・保健体育授業の改善・充実

- ・教職員向け研修講座において、「体力向上」に関する講座（58人）を開催し、各小・中学校における体育の授業改善を推進しました。
- ・体育エキスパート教員及びスペシャリスト教員による巡回指導を小学校6校、中学校3校で実施し、指導法の工夫・改善等に係る指導・助言を行いました。

2 食育の推進など学校、家庭、地域が連携・協働した生活習慣の確立

(1) 健康・安全・食に関する資質・能力（健康リテラシー等）の育成

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し、子どもたちの生活習慣における課題について、家庭と学校をつなぐ情報誌「ほーむ&すくーる」で発信しました。
- ・栄養教諭による食に関する指導を小・中学校で223回実施し、栄養や食事の摂り方等について、計画的な指導を行いました。

(2) 学校給食を通じた食育の推進

- ・学校給食の献立に「市の具」であるホッキ貝を使用した「ホッキカレー」や「カレーラーメン」を郷土の味として提供しました。
- ・保護者や学校に対して栄養だよりを年3回発行し、児童生徒の食生活の実態や、お米や牛乳のコラムなどの情報発信を行いました。



- ・学校給食や食育への理解や関心を深めてもらうため、公式Instagramを活用し、地場産物活用のPR、行事食の紹介、調理の様子などについて、保護者世代を中心とする幅広い世代へ情報発信を行いました。

- ・3姉妹都市である八王子市と日光市にちなんだメニューや中学校3年生に行った「リクエスト給食アンケート」の人気メニューなど、楽しみのある献立を提供しました。



- ・食物アレルギーを有する児童生徒が他の児童生徒と同じように学校給食を楽しめるよう、安全・安心なアレルギー対応食を提供しました。

- ・給食残渣をバイオガス発電に活用し、発電過程で生成された堆肥を用いた野菜を給食に使用する「食品リサイクルループ」に取り組みました。

■推進指標

指 標		R4	R5	R6	目標値
T得点:体力合計点の全国平均値を50.0とした場合の苫小牧市の児童生徒の値(点)	小	51.5	52.6	51.0	50以上
	中	48.0	48.5	48.1	50以上
体育の授業以外で週に総運動時間が60分以上と回答した児童生徒の割合(%)	小	90.7	89.9	87.2	95
	中	86.6	76.2	81.6	95
中学校3年生へのアンケートによる学校給食の満足度(%)		96	96	83	100
「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合(%)	小	92.8	92.7	90.7	100
	中	89.9	86.7	86.0	100
肥満傾向児の出現率(%)	小学男子	19.0	19.8	18.4	15.0
	小学女子	14.4	13.5	10.1	10.0
	中学男子	15.5	13.0	9.5	12.0
	中学女子	10.1	8.7	8.6	7.5
12歳児(中学1年)の一人平均むし歯数(本)		0.72	0.65	0.86	0.6

評価

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小学校では、男女ともに体力合計点において全国平均を上回った。中学校では、前年度と比較して、男子は20mシャトルランなど3種目、女子は持久走など3種目において、全国との差が縮まった。全ての学年において運動の基本となる走る、投げる、跳ぶ種目に課題がみられる。
- ・近年減少傾向となっていたむし歯本数が増加した。

■今後の取組

- 1 小学校体育エキスパート教員による巡回指導を小学校6校、中学校体育授業実践スペシャリスト教員によるチームティーチング指導を中学校で3校実施し、専門的な視点から指導方法の工夫改善等に係る指導・助言を行います。
- 2 教職員に向けて、専門家による適切なスクリーンタイムに関わる講演会を開催し、デジタル機器などの適切な利用習慣が図られるよう努めます。
- 3 各学校において、熱中症対策など児童生徒の命と健康を守るための対策に万全を期すほか、養護教諭と情報を共有し、むし歯予防など課題解決に努めます。
- 4 子どもたちの健康課題の改善に向けて、食の自己管理能力を高め、好き嫌いを減らし、食べ残しを減らすことできるよう、食に関する指導の推進に努めます。

また、食に関する正しい知識や健全な食習慣を身に付けることができるよう、栄養だよりによる情報発信、地場産物の活用など、学校、家庭、地域と連携して食育の推進に取り組みます。

トピックス

■非常食体験献立

9月1日の「防災の日」、6日の「胆振東部地震の日」にちなんだメニューを9月に提供しました。

市内小中学校に備蓄してある非常食のローリングストックの一環としてだけでなく、ライフラインが止まった場合を想定した献立にしました。災害時の備えや「いのちをつなぐため」に必要な食事について考える機会となりました。



施策5

特別支援教育の充実

■具体的な取組

1 連続性のある多様な学びの場の整備

- (1) 特別支援学級・通級による指導の在籍状況
 - ・特別支援学級在籍状況は、小学校が110学級467人（456人）、中学校が55学級216人（196人）、通級による指導在籍状況は、小学校532人（536人）、中学校156人（153人）となっており、それぞれの教育的ニーズに合わせた指導や支援を受けています。
 - ※（ ）内令和5年度在籍人数
- (2) 障がいのある子どもの学びの場の充実
 - ・児童生徒の一人一人の教育的ニーズに対応するため、苫小牧市特別支援教育基本方針を策定し、令和5年4月から運用を開始しています。
 - ・各学校の実態に応じて、特別支援教育支援員47人（45人）及び介添員26人（26人）を適切に配置しました。※（ ）内令和5年度在籍人数
 - ・特別支援に関わる教員を対象に計6回（令和5年度は5回開催）の専門性向上研修を行い、教員の資質向上に努めました。
- (3) 切れ目のない一貫した指導や支援の充実
 - ・特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の特性に応じて、一貫した指導を行えるよう、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用し、福祉機関や北海道苫小牧支援学校との連携を深めました。
 - ・エリアの特別支援教育部会の中で、小・中学校相互の授業参観や、特別な支援の必要な児童生徒についての情報共有を行うことで、小中の連携を深めました。

2 各学校における特別支援教育の充実

- (1) すべての教員の特別支援教育に関する専門性の向上
 - ・子ども支援室「あかり」が主催する研修講座を年6回行い、そのうち2回を通常学級を受け持つ教員にも対象を広げ、オンラインで研修を行いました。
 - ・特別支援教育支援員を対象にした研修会を年2回実施し、子どもたち一人一人の実態に応じた支援の方策を検討しました。
- (2) 特別支援教育研究委員会を中心とした研修の充実
 - ・研修講座では、通常学級担任と特別支援学級担任とで受講対象を分けて講座を開催したことで、それぞれの学級に在籍する特別な支援の必要な児童生徒のニーズに合わせた指導・支援の仕方について、理解を深めました。
 - ・すべての教員が活用しやすいよう個別の教育支援計画及び個別の指導計画の改訂を行いました。



【オンラインも併用したあかり研修講座の様子】

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
特別支援学級と通級による指導の児童生徒の「個別の指導計画」を作成している割合 (%)	100	100	100	100
通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒の「個別の指導計画」を作成している割合 (%)	65	40	63	80
過去5年間に特別支援教育に関する研修を受講した教員の割合 (%)	64	56	72	100
特別支援学校教諭免許状の所有率(特別支援学級担当教員及び通級による指導教員) (%)	46	51	47	70

評価

- ・通常学級における「個別の指導計画」の作成については、保護者の理解が必要となるため、保護者と作成・活用等の共通理解を深め、合意形成を図る必要がある。
- ・特別支援教育専門性向上研修の実施により、研修を受講した教員の割合の増加につながった。

■今後の取組

- 1 管理職を含めたすべての教員を対象とした研修の機会を増やすとともに、個別の指導計画の作成を促進し、通常学級を含めた特別支援教育を推進します。
- 2 令和5年4月から運用している「苫小牧市特別支援教育基本方針」に基づき、特別支援教育の充実に関する方策を各関係機関と連携しながら推進します。
- 3 各学校のニーズに応じた配置ができるように、特別支援教育支援員や介添員の人材確保に向けた工夫を行います。
- 4 近年増加している医療的ケアが必要な児童生徒への対応として、看護師免許を有する介添員の採用や医療機関との連携に努めるとともに、「苫小牧市立学校医療的ケア実施要綱」を策定・施行し、児童生徒が安全かつ安心して学校生活を送れるよう支援します。

トピックス

■特別支援教育研究委員会の取組



研究委員会の様子

特別支援教育研究委員会では、毎年増え続けている通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒への「特別な教育的支援の方法例」を「苫小牧っ子学力UP!ハンドブック(グリーン)」に掲載するなど、教員の指導の一助となるよう啓発したほか、すべての教員が作成・活用しやすいよう個別の教育支援計画及び個別の指導計画を改訂するなど、本市の特別支援教育の充実のための活動を行っています。

施策6

学校段階間の連携・接続の推進

■具体的な取組

1 Tomakomai All-9 の促進

- (1) 発達の段階に応じた系統的な教育活動の充実
 - ・ 苫小牧市学校教育力向上連絡協議会において、苫小牧型小中連携教育「Tomakomai All-9」推進基本方針に基づき、学びの連続性による学び方のブラッシュアップの必要性、交流及び共同学習の充実について共通理解を図りました。
 - ・ 苫小牧市学校教育力向上連絡協議会、エリア経営会議、各エリア部会（学力向上部会、特別支援教育部会、各エリア独自部会等）を開催し、教育LAN等を活用した情報交流及び成果の発信を行いました。
- (2) 中学校区でのカリキュラム連携の促進
 - ・ 明野小学校、明野中学校が小中連携研究指定校となり取組を進め、その成果を苫小牧市学校教育力向上連絡協議会で報告するとともに、教職員向けリーフレット「小中連携の取組」で発信しました。

2 幼稚園、認定こども園、保育所及び高校等との連携

- (1) 園児の体験入学や児童との交流活動の推進と研修等、教員交流機会の拡充
 - ・ 令和4年度から実施を開始した「小学校見学会」は、令和6年度42園（令和5年度は34園）が参加しました。身近な地域の小学校の見学や交流を通して、園児に小学校生活の見通しや期待感をもたせると同時に教員同士の交流につなげました。
- (2) 「苫小牧市幼小接続ハンドブック」による幼児教育と小学校教育の接続の強化
 - ・ 幼小間のスムーズな接続のため「幼小合同引継ぎ会」を1月に開催し、苫小牧市引継ぎシートをもとに、対面での丁寧な引継ぎを実施しました。
 - ・ 就学時検診の結果を踏まえ、教育支援委員会においておおぞら園や各園とのきめ細やかな実態把握や協議等を行うことにより、学びの連続性や個に応じた適切な指導・支援につなげました。
- (3) 子どもの実態を踏まえたスタートカリキュラムの編成・実施や成長を見通した評価・改善などマネジメントの強化
 - ・ 「幼小合同研修会」を開催し、小学校と各園の教諭が「架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）」にある子どもへの、幼小のつながりを意識した教育の在り方を協議・交流するとともに、各エリアでの研修を通して、子どもの実態を踏まえたスタートカリキュラムの編成・実施につなげました。
- (4) 高校等や地域企業と連携したキャリア教育の推進
 - ・ 全小・中学校において、キャリア・パスポートの活用と引継ぎ、職場見学・職場体験等の進路にかかわる啓発的な体験を実施し、主体的な進路選択に向けた意識の醸成を図りました。

■推進指標

指 標		R4	R5	R6	目標値
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (%)	小	83.6	83.9	84.5	85
	中	70.1	68.2	70.1	85
近隣の小・中学校と、教育課程に関する共通の取組(教科指導)を「よく行った」と回答した学校の割合 (%)	小	17.4	26.1	21.7	50
	中	46.7	33.3	40	50
近隣の小・中学校と、教育課程に関する連携した取組(教科指導を含む種々の教育活動)を行っているエリア(中学校区)の割合 (%)		62.5	66.6	73.3	100
エリア内の幼稚園等の意見を踏まえてスタートカリキュラムを編成している小学校の割合 (%)		100	95.7	69.5	100

評価

- ・今後も子どもたちが将来の夢や目標を持てるように、発達段階に応じた系統的な教育活動を行う必要がある。
- ・目指す子ども像の実現に向けて、子どもに関わるそれぞれの機関が共通認識を持てるようさらなる連携の推進が必要である。
- ・スタートカリキュラムの編成割合の数値は減少しているが、これまでの単なる年長児の実態に基づく編成から、幼児教育と小学校教育をつなぐ架け橋プログラムに基づく編成へと改善が求められていることに起因している。幼小連携の促進により、スタートカリキュラムのさらなる質の向上が図られるものと期待できる。

■今後の取組

- 1 全国学力・学習状況調査等の結果分析で課題となっている領域や資質・能力をまとめた資料を動画発信し、9年間の系統性のある指導ができるよう改善を図ります。
- 2 指導主事による指導・助言により小中連携指定校の取組を充実させ、その成果を広く市内小・中学校に還流することによって、各エリアの取組の向上につなげます。
- 3 「幼小連携交流会」を小学校ごとに実施することで、各園等の意見を踏まえたスタートカリキュラムの編成の促進につなげます。

トピックス

■「幼小合同引継ぎ会」の取組

幼小間のスムーズな連携・接続のため、毎年1月に各小学校と各園の担当者が集まり「幼小合同引継ぎ会」を開催しています。その際、「苦小牧市引継ぎシート」を活用することで、子どもたち一人一人の実態に合わせた引継ぎができるようにしています。



幼小合同引継ぎ会の様子

■明野中学校区での合同研修会

明野小学校と明野中学校の教員が集まり、学びの連続性を生かした授業改善について協議し、共通で取り組むことを話し合いました。

こうした研修会は、年に3回行われ、計画、実践、まとめを位置付けて取り組んでいます。



小中合同研修会の様子

施策7

不登校児童生徒への支援の充実

■具体的な取組

1 魅力ある学校づくりと不登校児童生徒への支援の充実

(1) 魅力あるよりよい学校づくりの推進

- ・学校と家庭が情報を共有し、「不登校対策プラン」に沿って、不登校を未然に防ぐための協力体制を強化しました。
- ・子どもたちの学習意欲向上と主体的な学びを生む授業実践がすべての学校で行われるよう、授業改善研究委員会での取組をもとに、具体的な授業改善策を教職員に周知しました。
- ・児童生徒が主体的に他者と関わり、認め合う喜びを感じることで、自己有用感と自己肯定感を育むことができるよう、各校において創意工夫ある取組を推進しました。
- ・各中学校区エリアの小・中学校の連携により、学習内容の連続性を踏まえた指導の充実を図ることで、進学時のギャップを最小限に抑える取組を行いました。

(2) 不登校の子どもを支援する体制の強化

- ・定期的な個別面談の実施や、関係機関との連携を密にすることで、不登校の予兆を早期に把握し、組織的な支援体制のもと、児童生徒一人一人に寄り添った継続的な支援を行いました。
- ・各学校において支援員や教職員を中心に、丁寧な登校支援や心の拠り所としての居場所づくりの整備を行い、不登校傾向のある児童生徒が再び学びに向かうための環境を整えました。

2 学校、家庭、地域が連携・協働した不登校対策の推進

(1) 多様で適切な教育機会の確保

- ・教育支援センターが市内全域からアクセスしやすい体制となったことで、児童生徒の利用数が5%増加しました。
- ・教育機会の保障と将来的な社会的自立を見据え、「不登校児童生徒の支援に関する指針」をもとに、学校、市教委、フリースクール※3などの多様な関係機関が連携することで、個々の状況に合わせたきめ細やかな支援を推進しました。
- ・身近な相談先やフリースクール等の情報をまとめた苦小牧市教委発行のリーフレット「学びの居場所さがし」を更新して連絡先を明示することで、必要な情報が児童生徒や保護者に届くよう努めました。



【不登校児童生徒の支援に関する指針の概要】

(2) ICTを活用した適切な支援の促進

- ・「不登校児童生徒の支援に関する指針」をもとに、自宅等におけるICTを活用した学習を支援することで、社会的な自立に向けた学びの継続と、学習意欲の維持・向上を図りました。ICTを活用した学習に取り組んだ日数（登校日数として計上）が前年度より約1.5倍に増え、学校以外の場所でも学習に取り組むことができる選択幅が広がるなど、学びの環境の充実が図られました。

※3 不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動など学びの場を提供する民間の教育施設。

■推進指標

指 標		R4	R5	R6	目標値
「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合（％）	小	81.0	80.2	80.4	85
	中	75.9	78.3	80.2	85
「不登校児童生徒」数（人）	小	130	195	250	120
	中	363	393	387	240
30 日以上長期欠席児童生徒において関係機関等からの支援を受けている割合（％）	小	75.7	69.9	99.2	80
	中	56.4	61.9	99.3	80
教育支援センター（適応指導教室）やフリースクール等において相談・指導や支援を受けた児童生徒の割合（％）	小	1.2	3.6	10.3	30
	中	6.5	7.4	12.9	30
不登校の子どもに対し、オンラインによる学習指導や教育相談を実施している学校の割合（％）	小	0	7.7	5.6	100
	中	0	13.3	10.6	100

評価

- ・「学校に行くのが楽しい」の割合が若干増加したが、不登校児童生徒数は増加が続いている。
- ・多様な学びの場の設定で何らかの支援を受けることができている。

■今後の取組

- 1 不登校対策研究委員会において、市内の不登校の発生状況や要因を継続的に分析し、最新のデータや先進的な対策事例を調査・研究し、実情に合った効果的な対策を提案します。
- 2 市内全小・中学校に校内教育支援センターを設置するほか、不登校対策支援員の段階的配置により、不登校の児童生徒個々の状況やニーズに応じた多様な学びの機会を確保する場とします。
- 3 オンラインでの個別相談や学習指導体制を整備し、不登校児童生徒の学習状況や精神的なサポートを行うとともに、教育支援センターにおける学習やICTを活用した学習の成果を適切に評価し、学習意欲の維持・向上に繋げる仕組みを検討します。
- 4 保護者向けの学習会や相談会、交流会などを開催し、不登校に関する知識や対応方法、利用できる支援制度などの情報を提供します。

トピックス

■不登校の子どもたちのためにできること ～京都市立洛友中学校の取組～

教育講演会
不登校の子どもたちのためにできること
とき 令和6年 10月29日 (受付17時より) 17時30分～19時
▼参加申込みはこちらから▼
【対象】市内小・中学校の児童生徒、教職員及び一般市民
【定員】360人
お問い合わせ：若小牧市教育委員会 教育部指導室 TEL. 32-6744

京都市立洛友中学校では、学びの多様な学校（昼間部）と二部学級（夜間部）を併設しており、今回は同校の校長である間野郁夫氏を招聘し、教育講演会を開催しました。

講演では、学校創設の経緯や受け入れ体制、独自のカリキュラムについて詳しくご説明いただきました。また、夜間部を併設する学校ならではの取組として、実践例や特色ある行事についてもお話しいただきました。

さらに、「不登校とどう向き合うか」をテーマに、生徒との信頼関係の構築や生徒理解の重要性、自分自身を大切にしたい気持ちを育てることの意義について、間野氏の考えを伺うことができました。

施策 8

学校と地域の連携・協働の推進

■具体的な取組

1 家庭、地域の教育力を生かした学校づくり

(1) 家庭教育力を高める啓発と協働

- ・家庭と学校をつなぐ情報紙「ほーむ&すくーる」を年5回発行し、学力向上や体力向上、生活習慣の整え方、子どもとの接し方など、家庭教育の実践に役立つ具体的な内容を発信しました。
- ・「保護者向け一斉情報配信システム」を活用し、部活動の地域移行や各種行事の案内など、家庭に必要な情報を適切なタイミングで発信するよう努めました。
- ・子育て研修会を胆振東部PTA連合会とともに主催し、望ましい生活習慣・学習習慣の定着や、他者を大切にする視点からの性教育のあり方などについて意見交流を行いました。

(2) 地域とともにある学校づくりのための推進体制の構築

- ・市内全地区（小中学校区）でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、各地区で行った事例の収集及び学校運営協議会への補助金の交付を行いました。
- ・通学路交通安全プログラムに基づき、学校から報告のあった通学路の危険箇所の点検を関係機関とともにいき、危険箇所の対策を検討するなど通学路の安全確保に努めました。（横断歩道カラー舗装、ガードパイプ設置など、4校11箇所）

2 社会との連携・協働による教育活動の構築

(1) 主体的に地域に関わる児童生徒の育成

- ・市内全小・中学校において、環境教育の一環としてゼロカーボンに関する出前講座を実施しました。講座では、児童生徒がクイズなどを交えながら楽しく環境課題について学び、持続可能な社会の実現に向けた意識の醸成が図られました。
- ・市内4校において、市危機管理室と連携した「一日防災教室」を実施し、防災かるたや避難所運営ゲーム「D o はぐ」などの体験活動を通して、防災に関する理解を深めるとともに、実践力の向上を図る取組を行いました。
- ・助産師等の外部講師を招き、児童生徒の発達段階に応じて、第二次性徴に伴う身体の変化や命の大切さ、性に関する正しい知識や多様な性の在り方について学ぶ性教育の授業を実施しました。

(2) 多様な学習ニーズに対応した連携・協働体制づくり

- ・学校運営協議会において、「しいたけ駒うち」「伝統芸能の継承」「かんじき体験」など、地域の自然環境や人材を活用した体験的学習を推進しました。あわせて、特色ある教育の推進のため、学校運営協議会へ補助金の交付を行いました。

(3) 部活動の地域移行への協議

- ・全中学校で保護者説明会を開催し、地域展開実現に向けての周知と理解に努めました。
- ・部活動、クラブ活動を一覧にまとめた「中学校部活動・クラブ活動ガイド」を作成しました。
- ・地域展開に関する情報発信として、さくら連絡網による「部活動地域展開ミニ通信」を配信しました。
- ・競技連盟、団体との情報共有及び活動支援に係る協力を依頼しました。



【部活動地域移行説明会】

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値	
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に、「参加してくれる」と回答した学校の割合（％）	68	62.4	-	85	
コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、上記の指標にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を「行った」と回答した学校の割合（％）	47	76.9	92.3	85	
地域や社会をよくするために何をすべきかを「考えることがある」と回答した児童生徒の割合（％）	43	69.2	79.1	60	
地域の人材や施設を活用し、地域の自然・文化・歴史等を理解する体験活動の実施（全学年で実施した割合 ⅔）	小	56.5	78.3	73.9	85
	中	68.8	60	60	85
指導計画の作成に当たり、「教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部資源を含めて活用しながら作成している」と回答した学校の割合（％）	小	100	100	95.6	100
	中	86.7	93.3	100	100

評価

- ・地域や社会をよりよくすることを「考える」児童生徒の割合が大きく伸びており、地域への関心や主体的な意識の高まりが見られる。
- ・地域資源を活用した体験活動や外部連携は継続しており、特に中学校では活用の広がりが見られるなど、地域とのつながりを活かした学びが定着している。

■今後の取組

- 1 児童生徒が自ら課題を見だし、自立した社会人としてよりよく生きる力を育むため、関係機関と連携して、防災教育や消費者教育など、今日的な課題に対応した学習活動を推進していきます。
- 2 各協議会において活発な議論・活動が行われるよう、令和5年度作成の活用事例集を各委員へ配付・周知します。
- 3 令和7年度から組織体制の強化として部活動地域展開担当を配置し、学校、地域、スポーツ文化団体をはじめとする関係機関と引き続き協議し、地域展開の実現に向けて取組を進めます。

トピックス

■ゼロカーボン連携事業



出前講座を受ける児童の様子

環境衛生部ゼロカーボン推進室による出前講座は、市内すべての小・中学校で実施され、クイズを交えながら児童生徒は地球温暖化や環境配慮について楽しく学びました。夏・冬休みに行われた家庭でのチャレンジには、延べ約1万3000人が参加し、CO₂の排出量を合計151トン削減することにつながりました。

また、全校で「チャレンジ宣言」を行い、地域全体で環境への関心と行動を広げる機会となりました。



施策 9

学びのセーフティネットの構築

■具体的な取組

1 多様な学習機会の提供や就学支援の充実

(1) 学びの機会の保障

- ・より多くの不登校児童生徒が通級しやすいよう、市内3か所に教育支援センターを設け、社会的自立と学びを支援しました。
- ・不登校児童生徒の学びの選択肢を広げるため、「不登校児童生徒の支援に関する指針」を策定し運用した結果、フリースクールなどの民間施設への通学やICT機器を用いた学習が進み、これらの学びを利用する児童生徒が増加しました。

(2) 就学に係る支援の推進

- ・経済的な支援を必要とする家庭には、学用品費や給食費の援助に加え、卒業アルバム（令和6年度実績：317人、3,064,196円）や英検受験費用（令和6年度実績：延べ26人、139,900円）を支給するなど、就学援助を推進しました。
- ・令和6年度も、多子世帯を対象とした給食費の無償化を継続して行いました（実績：延べ4,581人、20,495,318円）。
- ・教材費等の保護者負担軽減のため、各学校では使用教材の必要性を十分に検討するとともに、購入にあたっては複数業者からの見積りを比較検討するなどの取組を行いました。
- ・生徒が安心して学校生活を送るための環境整備として、学校トイレへの生理用品の配備を行いました。（小学校 17校／23校・中学校 14校／14校）

【就学援助の認定者数・支給額の推移】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
認定者数（人）	1,562	1,487	1,370
支給額（円）	156,753,347	156,347,082	145,211,565

【特別支援教育就学奨励認定者数・支給額の推移】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
認定者数（人）	335	335	361
支給額（円）	13,219,721	10,552,757	14,308,419

2 関係機関との連携による相談機能の拡充

(1) 悩みを抱える児童生徒の状況に応じた支援体制の充実

- ・市や道の教育委員会が運営する電話、メール、SNSによる悩みごと相談事業について、児童生徒向けリーフレットの配付や説明を実施するとともに、家庭情報誌等にも掲載し、保護者への周知を図りました。これにより、児童生徒と保護者が相談しやすい環境づくりを進めました。
- ・各学校では、学級担任等が日常的な教育相談やアンケートを通じて児童生徒一人一人の悩みの状況を把握し、必要に応じて養護教諭やスクールカウンセラーと連携できる体制を構築するなどきめ細やかな支援を行いました。

- ・9人のスクールソーシャルワーカー※4を配置し、各学校への巡回訪問を通じて支援状況を把握するとともに、児童生徒や家庭の状況に応じて、福祉制度に関する具体的な情報を提供するなど連携を図り、個々の困り感の解消に努めました。
- ・ヤングケアラーの早期発見と早期対応のため、児童生徒へのリーフレット配付による周知や、教職員向けの研修を実施し、ヤングケアラーに対する正しい理解を促進しました。

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
教材費等保護者負担の軽減に取り組んだ学校（校）	-	37	37	37
スクールカウンセラー（SC）配置校数（校）	30	31	31	37
スクールソーシャルワーカー（SSW）の相談員数（人）	8	9	9	10
ヤングケアラーに関する教員研修を受講した学校の割合（％）	100	100	100	100

評価

- ・保護者の経済的負担軽減に向けて、教材費の精査による軽減や、利便性の高い口座振替方式の導入を積極的に推進した。
- ・SC及びSSWの配置数を維持しつつ、各学校と専門職との連携をより一層強化することで、相談体制を質的に向上させた。

■今後の取組

- 1 経済的な困窮、家庭の事情、子育てに関する相談に対応するため、家庭情報誌やリーフレット等による制度の周知徹底を図るとともに、関係部署との連携を強化し、就学支援の更なる充実に向けて取り組みます。
- 2 不登校児童生徒対策研究委員会において、家庭との教育相談の在り方や不登校児童生徒への適切な支援について、道のスクールソーシャルワーカー等の有識者との研究協議を基に、各学校へ具体的な事例や活用可能な支援策として発信することで、不登校支援の充実を図ります。
- 3 苫小牧市ヤングケアラー支援条例に基づき、児童生徒及び教職員がヤングケアラーに関する正しい知識を習得できるよう、周知活動と研修機会の提供を継続するとともに、関係機関との連携による支援体制を維持し、より効果的な対応を目指します。
- 4 生理用品未設置校に対する、設置しない理由等の調査結果を踏まえ、すべての学校トイレへの設置実現に向け、関係各所との協議を加速化させます。

トピックス

■経済的な不安を解消！「学び」を支えるさまざまな補助金制度

その1～中学進学祝い制服等購入助成事業
希望者全員に、15,000円の助成

その2～多子世帯給食費助成
小中学校に在籍している3番目以降の子の学校給食費を補助

その3～新入学用品費の入学前支給
就学援助の要件に該当する家庭

その4～自転車用ヘルメット購入補助金
購入費用の2分の1かつ上限2,000円（先着650人）



※4 児童・生徒が抱えている問題に対して、保護者や教職員、関係機関と連携しながら解決に向けた支援を行う専門職。

施策10

教育環境・学校施設・設備の充実

■具体的な取組

1 学校規模や地域の実情に応じた望ましい教育環境の整備

- (1) 苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づく取組の推進
 - ・樽前小学校改築事業について改築工事が完了しました。
 - ・大成小学校改築事業について実施設計を実施しました。
- (2) 苫小牧市立小中学校規模適正化「現状と課題」に基づく取組の推進
 - ・勇払小学校及び勇払中学校の義務教育学校への移行を決定し、基本的な方針を示す地域プランを策定し、地域説明会を開催しました。

2 環境、健康、福祉に配慮した地域拠点としての施設の整備

- (1) ゼロカーボンシティに向けた学校施設の整備
 - ・大成小学校改築実施設計において、ZEB化を目指し、基本設計時に検討した事項を反映した形で環境負荷の低減に配慮した設計を実施しました。
- (2) バリアフリー化の推進
 - ・樽前小学校改築事業において、老朽化した校舎及び屋内運動場の改築工事に合わせ、バリアフリートイレを整備しました。

3 働き方改革の推進

- (1) 人的支援など時間外勤務時間縮減に向けた学校運営体制の充実
 - ・令和6年度においても北海道教育委員会へ加配教員を申請し、学校の実情に応じた運営体制の充実を図りました。
 - ・時間外在校時間が1か月あたり45時間を超える教員の割合が約0.8%削減しました。
- (2) 部活動指導員の配置拡大
 - ・令和5年度の配置人数11人に対して2人を増員、令和6年度は13人を配置しました。
 - ・部活動指導員の配置により、在校等時間から条例で定める勤務時間等を減じた時間について、配置校の1か月あたり45時間を超える教職員の割合を19.7%削減しました。
- (3) 通信環境の増強、校務用PCの更新により校務の効率化や事務作業に要する時間を削減
 - ・Wi-Fi機器(アクセスポイント)の更新や光回線を1Gから10Gへ増強したことによる通信環境の充実により、校内におけるICT環境の改善及び校務の効率化が図られました。
- (4) 教員の魅力を発信し、なり手不足を解消するインターンシップ受入の充実
 - ・市内及び登別市、室蘭市の高校4校から計58人のインターンシップ希望者を受入いたしました。
 - ・道教委の「草の根教育実習」事業(大学の休業期間に短期の教育実習を実施する)で、大学生5人を受け入れ、教員への志望意欲を高める機会を提供しました。
- (5) 部活動地域展開の推進
 - ・個人競技種目の完全地域移行に取り組み、教職員の中体連大会の引率業務についても地域クラブへ移行しました。
 - ・一部の種目において、拠点校部活動方式を導入し、教職員の指導時間の軽減を図りました。

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
バリアフリー化している学校（校）	15	15	15	20
時間外在校時間が1か月45時間以内となる教育職員の割合（％）	79.4	85.4	86.2	85
インターンシップ受入校（校）	22	24	23	37
部活動指導員数（人）	7	11	13	14

評価

- ・勇払地区の学校運営協議会をはじめ、学校、保護者、地域住民へ丁寧に説明を行い、義務教育学校への移行を決定することができた。
- ・各校において時間外縮減が進み、働き方改革への意識が定着してきている。

■今後の取組

- 1 望ましい教育環境の整備にあたり、学校の適正な規模及び配置が必要であることから、対象地域や具体的な方策、適正化に伴う実施時期等を示す新たなプランの策定に着手します。
- 2 苫小牧市小・中学校施設整備計画に基づき整備を進めています。老朽化に伴う改築や改修を重点的に実施するとともに新たに必要とされる学校機能の整備を進め、さらなる教育環境の向上を目指します。
- 3 働き方改革の一層の推進を図るため、教員の業務量の適切な管理と健康・福祉を確保するための措置に係る計画の策定を行います。
- 4 校務DX化（学校におけるデジタル技術を活用した業務効率化）を推進し、児童生徒の欠席連絡の校務支援システムへの反映など、教職員の業務負担軽減につながるような、さらなるICTの活用を進めます。また、新たな取組や先進事例を収集・発信し、現場でその有用性を実感できるよう支援を進めることで、校務の効率化と教育の質的向上の両立を図ります。

トピックス

■勇払小学校及び勇払中学校の基本的な方針を示す地域プランを策定！



苫小牧市立小中学校規模適正化地域プラン

【勇払地区】



地域説明会の様子

少子化による児童生徒数の減少などにより、学校を取り巻く環境に変化が生じてきた勇払地区の現状と課題を整理し、児童生徒の教育環境を充実させるため、「義務教育学校」への移行についての基本的な方針として「地域プラン」を策定しました。

本プランにおいて、学校建物の活用や具体的なスケジュールとして、既存の勇払中学校校舎を活用し、大規模改修等を経て、令和12年度の開校を目指すことを示しました。

学校運営協議会（コミスク）や地域説明会を通して、本プランについて説明し、地域の方々と意見を交わしました。

施策 1 1 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

■具体的な取組

1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

- (1) 子どもの健やかな発達と学びの支援
 - ・乳幼児期から本に親しんでもらうきっかけづくりとして、ブックスタート「赤ちゃん、絵本のとびら事業」を実施するとともに、フォローアップ事業として、中央図書館で「読み聞かせ」などを実施しました。
 - ・小学1年生に本を贈ることで、子どもたち自身が読書や本を選ぶ楽しさを知るきっかけを提供しました。また、家族や友だちと読書を通したコミュニケーションを育む、セカンドブック事業「いちねんせいへ、こころのたからばこ」を実施したほか、読書記録として感想等も記入できる「ぶっくのーと」を配布しました。
- (2) 青少年の豊かな心を育む学びの支援
 - ・公共施設の活用による学習機会の提供のため「子どものための行事案内」を毎月発行し、小中学校や幼稚園などへ提供しました。
 - ・長生大学の学生と市内小学生との世代間交流として、けん玉やお手玉、コマ回しなどを行いました。
- (3) 成人の学びの継続・学びなおしの支援
 - ・様々な理由により、今一度学びなおしをしてみたいと考えている方や現在の学校教育に関心を持っている方などを対象とした学びの場として「ナナカマド教室」を開講しました。令和6年度は、昼の部7回・夜の部6回実施するとともに、再開した校外学習では、美術博物館を見学し、学芸員による解説を交えた学習を行いました。
- (4) 長寿社会のニーズに合わせた学びの支援
 - ・健康や生きがいを考える学習機会の充実として、北洋大学との連携講座等の実施、また、高齢者主張発表会を開催しました。
 - ・図書館文化セミナーとして、直木賞作家の桜木紫乃氏を講師に「言葉で元気になりた〜い。」を開催しました。
- (5) 障がいのあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援
 - ・苫小牧市障がい者パソコンボランティア友の会の協力により、視覚や肢体に障がいのある方へ実生活でのパソコン活用の知識・技術の習得を目的とした「障がい者パソコン教室」をそれぞれ1教室、年間各15回開催しました。
 - ・身体に障がいのある方への学習支援「身体障がい者文化教室」として、西洋陶芸教室に支援しました。
- (6) 共生社会の実現に向けた、すべての市民への学びの支援
 - ・生涯学習や今日的課題に関心のある市民へ学習機会を提供するため、「苫小牧市民塾」を開催し、防災対応力をテーマに43人が参加しました。



【障がい者パソコン教室】

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
ナナカマド教室受講者数（人）	16	17	17	32
障がい者 IT 学習支援事業受講者数（延べ人数）	131	124	130	130
赤ちゃん、絵本のとびら事業対象者への配付率（％）	74.1	75.2	—	80.8
出前講座（回）	336	405	381	280

評価

・ナナカマド教室や障がい者 IT 学習支援などの事業において、受講者数がほぼ前年並みとなっているが、引き続き事業PRの強化が必要である。

■今後の取組

- 1 市民の個々の学びと多様な学習ニーズに対応するため、引き続き「セカンドブック事業」や「ナナカマド教室」、「障がい者学習支援事業」などの各種取組や、「出前講座」など関係機関と連携し、市民のライフステージにふさわしい学びの環境充実に努めます。
- 2 指定管理者と連携し、「赤ちゃんと楽しむ絵本ひろば」事業を実施し、本に興味を持ち、触れる機会を増やすほか、「出張！図書館」を実施するなど、より市民に親しまれる図書館を目指してまいります。

トピックス

■ナナカマド教室の取組



ナナカマド教室 夜の部



校外学習（美術博物館）

小学5・6年～中学1年程度の学習内容について楽しく学ぶことができる「ナナカマド教室」を開催しています。

昼の部と夜の部の2コースを設定し、学校の雰囲気を感じながら、国語、算数・数学、英語の3教科のほか、合同の校外学習を開催しています。

施策12

いつでも、誰とでも学べる環境づくり

■具体的な取組

1 学習グループや企業・団体との連携

(1) 企業・団体と行政の連携と発展

- ・読書週間において、「レッドイーグルス北海道選手おすすめ本」リストの配布やパネル展の開催、「図書館を駆け抜けろ！～ミッション速く走るコツを身につける」など、中央図書館とレッドイーグルス北海道が連携しイベントを実施しました。
- ・苫小牧市パソコンボランティア友の会とパートナーシップ協定を締結し、「障がい者パソコン教室」を開催しました。
- ・苫小牧市女性団体連絡協議会と連携し「苫小牧市民塾」を開催しました。

(2) 協働による学習の推進

- ・苫小牧市民文芸編集委員会と協働し、中央図書館にて郷土文化セミナーを実施しました。
- ・二十歳の市民との協働による「苫小牧市はたちを祝う会」を開催しました。
(令和6年度の参加人数 1,093人、令和5年度 1,082人)
- ・地域や団体などと協働し、「生涯学習だより」や「サークルガイド」を作成し、市民に情報提供を行ったほか、人材発掘によるつながりづくりを支援しました。

(3) ボランティア活動の啓発と支援

- ・社会福祉協議会ボランティアセンターが新たに開催した「絵本読み聞かせボランティア講習会」への講師派遣を行いました。
- ・PMF 苫小牧ボランティア友の会の会議や学習会を開催するなど、18人の会員にPMF 2024 苫小牧公演の準備と運営を担ってもらいました。

2 ICTの活用による学習環境の充実

(1) 学習支援情報の収集・提供

- ・中央図書館館内限定でビジネス書等の要約版を電子書籍として約10分で読める時短読書サービス「flier(フライヤー)」を提供しました。
- ・生涯学習関連情報として、生涯学習だより(4・9月全戸配布)やサークルガイド(年1回)、子どものための行事案内(毎月)をホームページなどで提供しました。

(2) 情報の共有化による学習支援ネットワークの展開

- ・文化交流センターなどの施設において、利用団体との意見交換会を実施しました。

3 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

(1) 学校と地域の連携、地域活性化による学びの支援

- ・学校や地域社会の連携に向けた取組として、「アウトリーチ推進事業」を実施したほか、「アーティスト・バンク」の活用を促すとともに、生涯学習人材の掘り起こしのための制度構築の検討を行いました。
- ・苫小牧市学校運営協議会(コミュニティ・スクール)中学校区実践事例集を作成し、学校や学校運営協議会などへ配布しました。

- (2) まちづくりへの参加促進と学習の成果を生かした市民参画
- ・障がいのある方にパソコンなどの操作を支援するボランティア講習会を開催し、支援の考え方やスキルを体験してもらいました。
- (3) 高等教育機関などの講座や教室との連携
- ・「生涯学習だより」での情報提供や「北洋大学連携講座」、「とまこまい市民ガレッジ」などの講座・教室と連携を図りました。

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
生涯学習関連講座開設数（件）	574	536	533	710
各施設の生涯学習関連講座受講者数（人）	5,940	6,234	5,992	10,000
アウトリーチ推進事業実施件数（件）	29	34	35	40
アーティスト・バンク登録数（人）	91	99	75	130

評価

- ・各事業で参加者数が減少傾向にある。受講者増に向け、引き続き団体などと連携、周知に努める必要がある。

■今後の取組

- 1 生涯学習関連施設との連携を強化し、市民の学習活動の支援を推進するほか、新たに「生涯学習人材バンク」を設置し、生涯学習分野における幅広い人材の掘り起こしと学びの循環の構築に繋がります。また、企業、生涯学習関連団体、高等教育機関などとの連携・協働により、多様で質の高い学びの環境を提供するよう取り組みます。
- 2 より市民に親しまれる図書館を目指すため、外部施設等に図書館職員を派遣し読み聞かせを行う「出張！図書館」を継続します。また、デジタル環境に対応した情報発信の強化のため、「電子図書館サービス」の充実に努めます。

トピックス

■苦小牧市学校運営協議会（コミュニティ・スクール）中学校区実践事例集



コミスク実践事例集

令和5年度に苦小牧市内すべての地区（全15中学校区＋樽前小校区）に学校運営協議会が設置され、「地域とともにある学校づくり」・「学校を核とした地域づくり」を促進するため、未来を担う児童生徒の成長を地域全体で支えるための体制を整備しました。設置初年度に各協議会として取り組んだ活動などをまとめるとともに、学校段階間で連携した取組や地域交流、地域人材活用、教育環境整備、研修会などの代表事例を掲載しました。

施策13

文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

■具体的な取組

1 文化・芸術に触れる機会、環境の充実

- (1) 生涯学習関連施設機能の充実
 - ・学校教育活動に支障のない範囲で教室などを市内文化団体の活動へ開放する「文化学校開放事業」を、10団体が利用しました。
- (2) 音楽やアートに関連する事業の展開
 - ・苦小牧出身の脚本家・演出家 水谷龍二氏の芝居公演や「PMF オーケストラ演奏会」や「スタンドアプトマコマイ 音楽の絵本～フェアリーテール～」などの鑑賞型事業を通じて、広く市民が文化芸術に親しむ機会を提供しました。
 - ・「苦小牧市民文化祭」や「苦小牧アートフェスティバル」などの参加型事業を通じて、市民が交流する機会を提供しました。
 - ・「ジュニア ミュージック クリニック」や「樽前アートスクール2024」などの参加型事業を通じて、文化芸術の担い手や若手芸術家が活動できる場の提供と指導者などの育成に努めました。
- (3) 文化財の積極的な活用
 - ・市民が歴史を理解するうえで貴重な財産である指定文化財等に親しむ機会として、「文化財発見ツアー」や「文化財スタンプラリー」を開催しました。
 - ・文化財保護審議会において、次期苦小牧市指定候補文化財の推薦文化財を決定しました。

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
市民文化芸術振興助成件数（件）	16	16	20	20
市主催鑑賞型事業入場率（％）	53.7	55.0	51.2	75.0
市主催文化芸術鑑賞事業の実施数（回）	5	5	4	6
市民文化祭参加人数（人）	2,166	3,055	3,347	6,000
苦小牧アートフェスティバル ワークショップ参加者数（人）	616	1,070	1,280	1,000
文化財発見ツアー参加者数（人）	27	34	38	40

評価

- ・文化芸術振興助成件数やアートフェスティバルの参加団体など、文化団体の活動が順調に回復してきている。
- ・市民の参加、入場率向上に向けた取組に課題がみられる。

■今後の取組

- 1 広く市民が文化芸術に親しみつつ、芸術家や文化団体などが活躍・交流する機会を促進するため、引き続き、ジュニア ミュージック クリニックなどの鑑賞型事業や体験型事業、「市民文化祭」や「苫小牧アートフェスティバル」などの参加型事業を実施します。また、「市民文化芸術振興助成事業」や「アウトリーチ推進事業」などにより、芸術家と指導者の育成や活躍を促進・支援していきます。
- 2 市民が苫小牧の歴史を知り、興味、理解を深めるため、文化財に触れる機会の提供に努めます。また、市内の貴重な歴史的文化遺産を積極的に指定し、次の世代へつなげるため、「文化財発見ツアー」などの機会を確保するとともに、美術博物館と連携を図りながら、指定文化財の指定と活用を進めます。
- 3 「文化芸術振興推進計画」の見直しに着手し、人が輝き文化の薫るまちづくりのさらなる推進に取り組んでまいります。

トピックス

■樽前アートスクールの取組



樽前地区散策の様子

苫小牧市樽前地区地域振興計画の目標の一つである「文化を育て支える地域づくり」のため、児童とその保護者が芸術家と一緒に触れ・学ぶことにより、樽前地区の魅力と、文化・芸術への関心を高めるとともに、感性や想像力などを育てることを目的に令和元年から実施しています。

3回目となった令和6年度は初の冬季間での開催で、合計23組51名が参加しました。



科学センター

■具体的な取組

施策1-1 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

- (1) 子どもの健やかな発達と学びの支援
 - ・未就学児を対象とした「プレスクール工作体験」を開催しました。
- (2) 青少年の豊かな心を育む学びの支援
 - ・日本宇宙少年団の活動を支援しました。
 - ・「科学ふれあい教室」「こどもの日工作教室」「文化の日工作教室」「木工教室」「電子工作教室」「こども環境工作教室」「プレスクール工作体験」「プログラミング教室」等を開催しました。
 - ・小学校5年生を対象にした「科学センター学習」を実施しました。
- (3) 成人の学びの継続・学びなおしの支援
 - ・外部講師と科学などをテーマに交流する「サイエンス・カフェ」を開催しました。
 - ・ミールや宇宙などについて解説する「ミールガイド」を開催しました。
- (4) 共生社会の実現に向けた、すべての市民への学びの支援
 - ・出前講座「移動科学センター」「移動天文教室」等を実施しました。



【ミール展示館】

施策1-2 いつでも、誰とでも学べる環境づくり

1 学習グループや企業・団体との連携

- (1) 企業・団体と行政の連携と発展
 - ・トヨタ自動車（株）と共催による科学工作教室を開催しました。
 - ・日本無線（株）、（株）電気工事西川組と共催による発明工夫工作教室を開催しました。
- (2) 協働による学習の推進
 - ・「苫小牧科学の会」などと連携し、「青少年のための科学の祭典」を開催しました。
- (3) ボランティア活動の啓発と支援
 - ・日本宇宙少年団・苫小牧科学の会との連携及び支援をしました。

2 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

- (1) 学校と地域の連携、地域活性化による学びの支援
 - ・苫小牧発明研究会、日本宇宙少年団、宇宙航空研究開発機構などの協力による展示会、教室等を開催しました。



【パブリックビューイングの様子】

施策13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

1 文化・芸術に触れる機会、環境の充実

(1) 生涯学習関連施設機能の充実

- ・実験室・工作室を利用した教室を開催しました。
- ・プラネタリウム等を利用した天体観測及び解説を実施しました。
- ・プラネタリウム室の設備を有効利用し、パブリックビューイング等の行事を開催しました。
- ・展示物を利用した宇宙開発技術や科学技術の解説を行いました。
- ・指導員を配置し、ミールの解説や天文・理科に関する相談に対応しました。
- ・ミールや宇宙などについて解説する「ミールガイド」を開催しました。
- ・苫小牧アートフェスティバルに参加し、工作体験を実施しました。



【アートフェスティバル】

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
利用者総数	94,330	93,423	107,391	110,000
プラネタリウム・天文	8,867	12,446	15,163	14,000
科学センター学習利用学校数（市内小学校23校）	23	22	23	23
移動科学センター（出前講座）実施回数	10	14	13	25
移動天文教室実施回数	1	13	19	20
科学工作教室の実施回数	26	29	28	30
青少年のための科学の祭典入場者数	184	803	1,574	1,000

評価

- ・利用者数は順調に増加し、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準を上回っている。
- ・教室・講座の応募者数が定員を大きく上回ることがある一方で、定員に満たない場合もある。

■今後の取組

- 1 実験・工作教室、センター学習、移動科学センター（出前講座）など各種教室の充実化を図ることにより、子どもから大人まで科学やものづくりに対する興味を高めます。
- 2 学校や企業・団体等との連携を強化し、施設としての機能充実に努めます。
- 3 ホームページやSNS等を活用し、事業の周知に努めます。

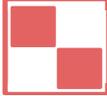
トピックス

■青少年のための科学の祭典



令和6年8月31日(土)、苫小牧科学の会主催の「青少年のための科学の祭典 苫小牧大会2024」が苫小牧市科学センターにて開催されました。市内外の高校教員や生徒、苫小牧高等専門学校の学生、日本宇宙少年団苫小牧分団のメンバーや企業など約40人が19ブースを出展し、会場を訪れた小中学生や保護者などが実験などを通して科学に親しんでいました。

※生涯学習推進基本計画で掲げる施策の展開番号を、表記の都合上一部繰り上げています。



美術博物館

■具体的な取組

施策1 1 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

(1) 青少年の豊かな心を育む学びの支援

- ・本市の歴史等について学習するため、小学校4年生を対象とした郷土学習を実施しました。
- ・中学生が仕事について学ぶ機会として、市内の中学校の職場体験を受け入れ、館内の見学や歴史資料を用いた実習を行い、学芸員の仕事について理解を深めてもらいました。
- ・無料観覧日に多彩なイベントを開催し、美術博物館に親しんでもらう機会を創出しました。



【郷土学習の様子】

(2) 成人の学びの継続・学びなおしの支援

- ・郷土の自然や歴史、文化芸術について、様々な分野の講師を招き、大学講座を実施しました。
- ・地域の自然や歴史、文化について理解を深めてもらうため、展覧会を4回開催しました。
- ・アイヌの丸木舟について、国立アイヌ民族博物館と共同シンポジウムを開催しました。

(3) 障がいのあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援

- ・地域の自然や歴史、文化等の様々な分野の展覧会の開催に合わせた解説会を実施しました。

(4) 共生社会の実現に向けた、すべての市民への学びの支援

- ・苫小牧の歴史へ親しみをもってもらうため、歴史見学会を実施しました。
- ・苫小牧市内の生き物の観察や標本づくりを体験する自然観察会を実施しました。

施策1 2 いつでも、誰とでも学べる環境づくり

1 学習グループや企業・団体との連携

(1) 企業・団体と行政の連携と発展

- ・NPO法人樽前artyプラスと連携し、子ども広報部「びとこま」の活動を実施しました。
- ・出光興産株式会社北海道製油所に協力し、工場緑地の自然環境を体感する機会を設けました。

(2) ボランティア活動の啓発と支援

- ・ボランティアを公募し、展覧会開催時の監視活動やイベント補助に協力してもらいました。
- ・美術館友の会等と連携し、展覧会開催時の監視活動やポスター等の発送準備、市民向け講座開催時の会場提供など様々な取組を連携して行いました。

2 ICTの活用による学習環境の充実

(1) 学習支援情報の収集・提供

- ・美術博物館独自のSNSを活用した情報発信を行いました。
- ・中央図書館へ美術博物館だよりなどのデータを提供し、電子図書館で活用してもらいました。

3 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

(1) まちづくりへの参加促進と学習の成果を生かした市民参画

- ・郷土への理解を深めてもらうため、小学校等に出前講座や学芸員の派遣を実施しました。

施策13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

1 文化・芸術に触れる機会、環境の充実

- (1) 生涯学習関連施設機能の充実
 - ・当館の機能や学習資源を知ってもらい、教職員の館活用のための情報を提供するため、小・中学校の夏季休業中に教育研究所と連携し、教員のための博物館の日を開催しました。
- (2) 音楽やアートに関連する事業の展開
 - ・苫小牧アートフェスティバルと連携して美術博物館祭を同時開催し、ワークショップ等の実施による制作体験や学びを通して、当館の活動に親しむ機会を創出しました。
- (3) 文化財の積極的な活用
 - ・特集展示やロビー展示、こどもの日など時季にちなんだ所蔵資料の展示を行いました。

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
利用者数（人）	35,173	39,926	29,350	30,000
アンケート結果（満足度）（%）	91.4	84.1	89.2	85.0
一日当たりの利用者数（人）	114.2	129.2	95.6	97.4
ボランティア登録者数（人）	41	44	52	60
ボランティア研修会（回）	6	8	10	10

評価

- ・利用者数が目標値に達せず、事業のPRや周知活動の強化が必要である。
- ・ボランティアの活動機会の充実により、登録者数が増加傾向にある。

■今後の取組

- 1 効果的な広報活動を模索しながら、利用者数の増加に取り組めます。
- 2 学芸員の専門性を活かした調査研究や資料、地域に関わる知見を充実させ、その成果を展覧会に反映することで、子どもたちをはじめとする市民の知的好奇心に働きかけ、歴史、自然、考古、文化芸術への学びを深めるための魅力ある施設となるよう努めてまいります。

トピックス

■2024年「国際博物館の日」記念事業

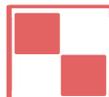
国立アイヌ民族博物館・苫小牧市美術博物館 共同シンポジウム「アイヌの舟と交易」



シンポジウムの様子

美術博物館では、所蔵している丸木舟（うち5艘は北海道指定有形文化財）について、国立アイヌ民族博物館と共同で調査研究を実施しています。年代測定や3次元計測といった最新の化学分析によって得られた成果や丸木舟を用いたアイヌの交易について、6人の研究者による基調講演や事例報告を行いました。苫小牧は道内で最も多くの丸木舟が出土しています。今後も研究を深め、成果の公開に努めてまいります。

※生涯学習推進基本計画で掲げる施策の展開番号を、表記の都合上一部繰り上げています。



中央図書館（指定管理施設）

■具体的な取組

施策11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり

1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

- (1) 子どもの健やかな発達と学びの支援
 - ・人気絵本作家と一緒にオリジナルの絵本を作るワークショップ、セカンドブック事業選定本である「さくらら」の作者による講演会、青空の下で読み聞かせを行う青空こどもとしょかんなどを実施しました。
- (2) 青少年の豊かな心を育む学びの支援
 - ・図書館見学・職業体験を積極的に受け入れるとともに、児童センターへ図書館が伺う「出張！図書館」を実施し青少年の学びの支援を実施しました。
- (3) 成人の学びの継続・学びなおしの支援
 - ・厳選された最新のビジネス書や教養書を10分で読める要約サービス（flier）を導入し、働く世代の学びの継続の支援を開始しました。
- (4) 障害のあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援
 - ・通常の文字サイズが読みにくくなった方でも読書を楽しんでもらえるよう大活字本を拡充するとともに、拡大読書器やレーザ網膜投影視覚支援機器を導入しました。

施策12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり

1 学習グループや企業・団体との連携

- (1) 企業・団体と行政の連携と発展
 - ・今年度も引き続きレッドイーグルス北海道と連携し、レッドイーグルス北海道選手&監督&鷲斗くんおすすめ本のパネルを展示し、リストを配布しました。図書館を駆け抜けろ！ではレッドイーグルス北海道の方が講師となり小学生に早く走るコツを教えていただきました。
- (2) ボランティア活動の啓発と支援
 - ・フリーアナウンサーによる朗読研修会、図書館ボランティア養成講座、ボランティア意見交換会を実施しました。

2 ICTの活用による学習環境の充実

- (1) 学習支援情報の収集・提供
 - ・前年度好評であった八尾市（大阪府）との電子図書館資料交流展示について、令和6年度は豊田市（愛知県）を加えた3館で地域の独自資料の交流展示を行いました。
また、電子図書館の拡充を図るとともに、新たに「とまチョップの苫小牧さんぽ 苫小牧市サンガーデン」を郷土資料に関する資料として作成し、掲載しました。

3 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

- (1) まちづくりへの参加促進と学習の成果を生かした市民参画
 - ・令和6年度胆振図書館協議会研修会として、市民参画で作る図書館をテーマに「「繋がる」～本で繋がる・人で繋がる・人が集うまちの図書館・図書室を創ろう～」を実施しました。

施策13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

1 文化・芸術に触れる機会、環境の充実

- (1) 生涯学習関連施設機能の充実
 - ・御朱印巡りのように市内の各図書館を訪ね歩く苦小牧市図書館ぐるっと「図書印」旅を企画し、いつもは利用しない図書館・図書室への利用促進を図りました。
- (2) 音楽やアートに関連する事業の展開
 - ・PMF2024 オーケストラ苦小牧公演に合わせて関連本の展示を行いました。

■推進指標

指 標	R4	R5	R6	目標値
入館者数（人）	246,001	225,827	222,158	228,290
新規利用登録者数（人）	1,796	1,733	1,630	1,740
利用者満足度（満足・やや満足）（%）	95.7	94.8	95.5	95.5
図書館貸出資料数（千冊）	744	725	724	728

※目標値は貸出冊数は総合計画、他は図書館運営計画による

評価

令和6年度は、直木賞受賞作家である桜木紫乃氏を招聘し、講演を行うなど、市民の興味・関心が高いイベントを積極的に実施し、また訪れた市民に本を手にとってもらえるよう工夫が凝らされた展示がされていたものの、利用者、貸出数ともに伸び悩む結果となった。今後も継続して、より良いサービスの提供を行うとともに、新たな利用者の獲得に努めることが必要である。

■今後の取組

- 1 中央図書館では、小さなころから本に親しんでいただけるように、こそだてtime や赤ちゃんと楽しむ絵本ひろばを実施しています。さらに、令和6年度からは、保育園や児童センターに読み聞かせに伺う「出張！図書館」を開始しました。これからも幅広い世代に図書館をより身近に感じていただけるような取組を進めてまいります。

トピックス

■出張！図書館！



幼稚園での読み聞かせの様子

図書館が外に飛び出し、読み聞かせを行う「出張！図書館」を実施しています。

令和6年度は「備えるフェスタ」や「プラネタリウム」などのイベントへの「出張」に加えて幼稚園や児童センターへの「出張」を行い、たくさん子どもたちに喜んでいただきました。

また、「出張！移動図書館」では、保育園やイベント会場に移動図書館車が伺い、たくさんの方に利用していただきました。

※生涯学習推進基本計画で掲げる施策の展開番号を、表記の都合上一部繰り上げています。

※具体的な取り組みについては、図書館要覧の記載事項を苦小牧市生涯学習推進基本計画に対応して転記したものです。

4 点検・評価に関する意見等

1 学識経験者

教育委員会が行った点検・評価の結果に関して、次の4名の方から意見や助言をいただきました。今後の施策や事業等の展開に活用してまいります。

- 古御堂 徹 氏（北海道苫小牧東高等学校 校長）
入江 泰之 氏（北海道苫小牧支援学校 校長）
高松 雅弘 氏（北海道私立幼稚園協会 苫小牧・日高支部）
藤島 豊久 氏（苫小牧市社会教育委員会議 議長）

2 本報告書に関する御意見

頂いた御意見・御質問について、教育委員会の考え方と併せて次のとおり掲載します。
(一部、抜粋または要約しております)

○教育委員会の活動状況について

御意見・御質問	教育委員会の考え方
学校現場の今日的課題（特別支援教育・不登校・ICT教育等）の解決に向けた委員の参画拡大について検討してみては。	本市の様々な教育課題の解決・改善に向け、関連する教育講演会への参加や教育現場の視察を通して現状を把握した上で、それぞれの委員の幅広い知識や専門性、豊かな経験をもとに参画していただきたいと考えております。
大きな負担とならない程度の持続可能な取組の範囲内で、市民意見の一層の反映や、教育委員と保護者・地域住民との直接的な対話の機会や意見交換する場の創出について検討してみては。	教育委員が直接学校を訪問し、子どもたちの様子を見学したり、教職員から学校運営について話を伺い、意見交換する機会を設けておりますが、保護者や地域住民の視点やニーズを把握することも必要であると考えますので、今後、教育委員の活動の中でどのような取組が可能か検討してまいります。
定例的に開催し、多様な案件について審議され適切だった。また、学校訪問等による現状や課題などの把握については、市長の基本政策とリンクさせ教育委員の姿勢を積極的にアピールしてみてはいか	学校訪問等において把握した課題については、総合教育会議等において市長と連携し、意志疎通を図りながら教育行政を推進してまいります。

【その他御意見】

会議の開催状況について

- ・定例会は毎月1回原則公開で開催され、市民への説明責任を果たす姿勢がうかがえる頻度でもあり、適切である。
- ・勇払地区の学校再編や部活動の地域移行など、市の教育課題に即した具体的案件が取り上げられており、適切である。

委員の活動状況について

- ・点検・評価報告書から、教育委員会の定例会が毎月開催され、学校の管理運営事項や教科用図書採択など、多岐にわたる案件について審議されている。
- ・「不登校児童生徒への支援の充実」や「特別支援教育の充実」など喫緊の課題を学校教育推進計画に位置付けている。
- ・苫小牧市教育大綱に掲げる「未来の社会をつくるひとづくり」に向けた施策を計画的に推進している。
- ・4校延べ12名の訪問を実施し、HISAE 日本語学校訪問など、現場理解に努めており、頻度・内容ともに有意義な取組である。
- ・式典、スポーツ大会、美術展など幅広く参加しており、市民文化との接点を重視している姿勢がうかがえる。

○主要施策等の点検・評価について

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>施策1 確かな学力の育成</p> <p>児童生徒の資質・能力を一層伸長する必要があることから、義務教育においても「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する必要がある。</p>	<p>小・中学校の9年間で育むべき資質・能力を身に付けた目指す子ども像の具現化に向けて、引き続き、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化による質の高い学びを創造・推進してまいります。</p>
<p>施策1 確かな学力の育成</p> <p>確かな学力の育成は学校教育で求められる喫緊の課題であり、そのための授業改善の方向が具体的に示されており評価できる。特に子どもが主語の4つの共通取組場面は主体的な学びを身に付けるプロセスとして、教師の指導技術の向上のために必要なポイント。</p> <p>また、幼児保育・教育では近年、『主体性を育てる保育』をあらゆる活動場面で追求しているので、幼保小学校の接続を意識して発展的・計画的に定着させたい。</p>	<p>学校教育においては、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図り、学びや生活の基盤を築く「架け橋期」の充実が求められています。</p> <p>本市においては、幼小の円滑な接続に向け、「幼児期までに育てたい10の力」と「目指す子ども像の具現化に向けて育成すべき資質・能力」を踏まえた「架け橋期のプログラム」に基づき、各小学校におけるスタートカリキュラムの工夫・改善を図っているところです。</p> <p>幼児教育で培った園児の主体性を、いかにして小学校教育における学びにつなげ、伸ばしていくか、その点に視座を置いた幼小連携研修会及び交流会を計画的に開催しており、各園・小学校教員の資質能力と幼小連携教育の質を一体的に高める取組の充実に、今後も努めてまいります。</p>

<p>施策1 確かな学力の育成</p> <p>今後の「とまこまい学びの3か条」の見直しに期待する。あわせて保護者への啓発も重要ではないかと感じた。</p>	<p>「とまこまい学びの3か条」につきましては、家庭学習における子どもの主体的な学びを一層促す視点から、現在、見直しの検討を進めているところで。</p> <p>また、保護者への啓発につきましては、これまでも家庭と学校をつなぐ情報紙「ほ一む&すくーる」やホームページ等を通じて、家庭学習の重要性や取組例を発信しております。</p> <p>今後も、様々な機会を捉え、多様な情報媒体を活用しながら、啓発に努めてまいります。</p>
<p>施策1 確かな学力の育成</p> <p>教育先進地とはどのようなところで、成果とはどのようなものか。</p>	<p>教育先進地の視察については、例年、学力向上において大きな成果を上げている地域を選定しております。</p> <p>令和6年度は、本市で目指す個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実による授業改善を通して、全国学力・学習状況調査において高い結果を残している京都市立の小・中学校を視察いたしました。</p> <p>子どもたちが主体的に他者とかがわりながら学ぶために必要な学習環境の整備や単元づくりの方法、子どもたちへの支援のあり方など優れた実践を学び、後日、各種研修会において市内教職員に先進事例として共有することで、成果を還元しております。</p>
<p>施策2 これからの時代に求められる資質・能力の育成</p> <p>今後もより効果のある学習ソフトウェアやプログラミングの応用を期待する。</p>	<p>学習のねらいを達成するために教員が効果的にICTを活用し、授業の質を高められるよう、多様な学習ソフトウェアの活用に関する実践的な研修を継続的に実施しております。</p> <p>研修受講教員が各校において還流することで、実践の輪が広がり、ICT活用の取組が着実に浸透している現状にあります。</p> <p>すべての教員が授業改善や業務効率化への多様なアイデアを出しながら、前向きに自信をもってICTを活用できるよう、より一層充実した研修機会を提供してまいります。</p>
<p>施策2 これからの時代に求められる資質・能力の育成</p> <p>目標値には届いていない項目の原因はどこにあるのか。また、子どもたち自らが疑問や不思議を発見し、ICTを活用し、継続的に探究することをすすめてほしい。</p>	<p>ICT活用の目標値に届かない背景には、教員の活用スキルの差や、学習場面によってはICT以外の手法が有効であることなどが要因として挙げられます。本市としても、ICTはあくまで学びを深める手段の一つと捉え、「ICT活用ハンドブック」において効果的かつ多様な活用例を提示してござい</p>

	<p>す。</p> <p>それらを参考にしながら、児童生徒が自らの疑問の解決に向け、探究的に学習を進めていくことができるよう、発達段階や学習内容に応じたICTの活用促進を図ってまいります。</p>
<p>施策2 これからの時代に求められる資質・能力の育成</p> <p>効果的にICTを活用するために毎年行われている「NEW EDUCATION EXPO」「EDIX」等のような展示会に足を運び、最新の教育コンテンツを研究していただきたい。</p>	<p>令和6年度は、指導主事が愛知県で開催された「ICT機器の活用と管理、研修」セミナーに参加し、先進的な事例を学び、見識を深めました。学校訪問時の指導助言に反映できるよう、その成果を指導主事で共有しております。</p> <p>今後も最新の教育動向を把握するとともに、効果的なICT活用について現場への情報発信に努めてまいります。</p>
<p>施策3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成</p> <p>道徳科の授業において児童生徒にとって一番身近な教師の人間性に触れる工夫が一層必要。</p> <p>「よりよい生き方について本気で考え、議論する授業の実現」が今後の取組に加えられたことを評価するとともに、本気度を醸成する研修を進めてほしい。</p>	<p>子どもたち一人一人に豊かな心を育むために、学校教育全体でおこなう道徳教育の要となる道徳授業の充実に資する研修の充実に努めております。</p> <p>日常の道徳的諸問題を自分事としてとらえ、よりよい生き方について考えることができる「魅力ある授業」の創造と実践に、すべての教師が高い意欲と情熱をもって臨めるよう、道徳教育に係る総合型研修となる「道徳教育推進パッケージ」をはじめ、実践家の講師を招聘しての研修講座の開催など、計画的に進めているところです。</p> <p>教師と児童・生徒が心に響く学びを共に創り上げる中で、子どもたち一人一人に道徳性が醸成される授業を、今後も目指してまいります。</p>
<p>施策3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成</p> <p>文中に“あらゆる”場面という言葉があるが、どのようなことを指しているのか。</p>	<p>ここでいう“あらゆる”は、児童生徒が登校してきたときの玄関における見守りから、授業や休み時間、放課後に下校するまでのすべての場면을指しています。</p> <p>「観察」は、常に児童生徒を監視するという意味合いではなく、学校生活において教職員と児童生徒がかかわる様々な場面において、児童生徒のちょっとした変化も見逃さない、「見取り」を意味しています。</p> <p>いじめの兆候やSOSのサインが発せられていないか、常にアンテナを高くすることで、いじめの未然防止につなげるとともに、問題が発生した際の迅速かつ適切な対応につなげています。</p>

<p>施策3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成</p> <p>子どもたちの会話の道具ともなっているSNS上でのいじめは全国でおこっているようだが対策は実施しているか。</p>	<p>本市では、「子どもと一緒に考える安全・安心な情報機器利用のためのガイドライン」を作成し、保護者が子どもと一緒にいじめにつながる可能性やSNSなどでの正しい表現方法などを理解するための一助として、活用を啓発しています。</p> <p>また、各校で実施している「ネット安全教室」やメディア教育講演会、さらには道徳科の授業においても、SNS上のトラブルからいじめに発展した事例など題材に、SNSの適切な使い方について児童生徒が自分事として考える学びを進めています。</p>
<p>施策4 体力向上・健康教育の充実</p> <p>苫小牧支援学校は苫小牧市の給食センターの給食をいただいている。毎月届く「日めくり食育カレンダー」も各学級での食育に活用している。実際に本校の児童生徒の給食の様子も見に来ていただき、学教給食および食育のさらなる充実につながれば幸い。</p>	<p>日頃より、食育カレンダーをご活用いただき、ありがとうございます。貴校における食育の推進に少しでも寄与できていれらうれしい限りです。</p> <p>今後折を見て、訪問等させていただければと思いますので、その際はよろしく願いいたします。</p>
<p>施策4 体力向上・健康教育の充実</p> <p>「運動することが好きな子ども」だと運動嫌いな子どもは無視しているように感じるが。</p>	<p>本市といたしましては、運動の得意・不得意にかかわらず「運動をすることが好きな子ども」の育成を目指し、体育・保健体育授業の改善・充実に努めております。</p> <p>運動が苦手、運動が嫌いな子どもであっても、運動することの楽しさや面白さを体感しながら取り組めるよう、遊びの要素を取り入れたり、スモールステップで技術が習得できる場づくりをしたりと、様々な工夫を行っております。</p> <p>誰一人として取り残すことなく、運動が好きで、進んで運動に親しみ、健康な心身を維持しようとする児童生徒の育成に、引き続き努めてまいります。</p>
<p>施策4 体力向上・健康教育の充実</p> <p>今後益々物価が高騰することが考えられ、そのような時に栄養を確保することは難しいことかもしれないが創意工夫を願う。</p>	<p>この数年で食材価格が急激に高騰し、今後も続くことが想定されるため、献立の工夫や単価の安い食材に変更するなど、食材購入費の節減に取り組んでおります。</p> <p>今後も様々な工夫を継続しながら、子どもたちの成長に必要な栄養を満たした安全安心な給食提供に努めてまいります。</p>
<p>施策5 特別支援教育の充実</p> <p>特別支援教育の推進は、管理職を含めた教職員の研修の機会が必要であり、児童生徒一人一人のニーズに応じた支援・指導が必要である。</p>	<p>管理職をはじめコーディネーターや通級指導担当教員、また特別支援学級担当の経験年数に応じた特別支援教育の専門性向上研修につきましては、計画的に開催しております。今後も、児童生徒のニーズ</p>

	<p>に応じた支援の充実が図られるよう、教師力向上に努めてまいります。</p>
<p>施策5 特別支援教育の充実</p> <p>通常学級における「個別の指導計画」作成率向上と、保護者理解の促進が必要ではないかと考える。また、「適正就学」については、法的根拠（学校教育法施行令第22条の3）に基づいてしっかりと整理し、「学びの場」を適切に判断していく必要があると強く感じている。</p>	<p>「個別の指導計画」については、通常学級における特別な支援や配慮が必要な児童生徒に関わるすべての教員にとって利便性の高い様式に変更するとともに、計画作成の意義や保護者への説明の在り方等を学ぶ機会を位置づけております。これにより、各学級における支援計画の効果的な活用と保護者理解の一体的な促進が図られているものと考えております。</p> <p>「適正就学」については、法的根拠に基づき、教育支援委員会において、児童生徒個々の障がいや特性に応じた適切な「学びの場」を判断しております。引き続き、児童生徒の実態を丁寧に見取り、関係機関との連携強化を図りながら、支援の在り方や就学先を適切に判断してまいります。</p>
<p>施策6 学校段階間の連携・接続の推進</p> <p>キャリア教育について、小中高等学校の児童生徒を障がい者就労支援事業所やこども園などで受け入れを経験したが、児童生徒自らが事業所や施設を調べ、働き方に関心を持つなど自ら行動する姿が見られた。</p> <p>また終了後は職場体験の感想や礼状が届けられるなど、社会との円滑な接続を図ろうとする学校の指導もくみ取ることができた。職業の理解と好奇心、職業体験や職業人との直接対話を計画して、多様な職業や夢などを広げていきたい。</p>	<p>本市では、子どもたち一人一人が夢をもち、夢を語り、夢を叶えるために必要な力を育む「夢実現教育」を推進しております。将来なりたい自分の姿をイメージし、また、勤労観や職業観が養われるよう、児童生徒の発達段階に応じて、職場体験や多彩な講師から学ぶ出前授業などを計画・実施しております。</p> <p>小・中学校の9年間で、様々な職種に触れたり、新たな気づきや感動を得たりする機会を設定することで、自己実現につながるよう系統的な学びの充実に努めてまいります。</p>
<p>施策7 不登校児童生徒への支援の充実</p> <p>不登校児童生徒数の増加は、接続する高校の課題でもある。「苫小牧市の子どもは苫小牧で育てる」の観点から、高校生を含めた個別相談の体制を構築したい。</p>	<p>スクールソーシャルワーカーと高等学校の教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーの連携、関係機関との情報共有により生徒が抱える課題の改善・解消を図っている他市町の先進事例等を参考に、切れ目のない支援体制の構築に向けた検討を進めてまいります。</p>
<p>施策8 学校と地域の連携・協働の推進</p> <p>各種学校間や地域との連携を深めるため、コミュニティ・スクールを中心に、「1日防災学校」や「交通安全プログラム」などで協働する必要がある。</p>	<p>ご意見のとおり学校間や地域との連携を深めるために、防災体験や交通安全プログラムによる安全点検は効果的であると考えております。</p> <p>防災訓練や交通安全の協議を行っているコミュニティスクールもあるため、活動事例集などを通じて他の地区にも周知し、学校運営の活性化や地域とともにある学校づくりを進めてまいります。</p>

<p>施策 8 学校と地域の連携・協働の推進</p> <p>P T Aが主催する研修会など、地域の教育力の向上を目指すのであれば、他の研修会も含め、当日集まれる人だけで意見・交流するのではなく、動画配信するなど、情報を得にくい人にも参加していただくことはできないか。</p>	<p>各校では、宿泊行事等における保護者説明会のオンライン視聴方式を導入して、より多くの保護者に必要な情報を届けている例もあることから、PTA 主催の研修会等においても、当日参加できない保護者が必要な情報を得られるような手段を検討してまいります。</p>
<p>施策 10 教育環境・学校施設・設備の充実</p> <p>引率業務についても地域クラブへ移行とあるが、引率は大会そのものだけではなく道中や選手の健康、精神面など最低限知っておかなければならないが、地域クラブはこういった研修を受けているのか心配。</p> <p>また、事故が起きるなどの責任は地域クラブにあるのか。保護者から訴えられた場合の考慮はされているか。</p>	<p>中体連以外の大会においては、すでに地域クラブ関係者が大会引率、遠征等を実施しており、選手の健康管理や引率業務についての理解と対応能力は十分に備えているものと認識しております。</p> <p>また、万が一の事故等への備えとして、地域クラブでスポーツ保険に加入しており、責任の所在についても、あらかじめ保護者等に説明を行い、ご理解をいただいているところです。</p> <p>今後さらに地域展開を進めていくにあたり、関係者の不安を招くことのないよう、安心して活動できる環境づくりと制度設計に努めてまいります。</p>
<p>施策 10 教育環境・学校施設・設備の充実</p> <p>校務D Xと合わせた教員の業務負担軽減と質の両立が課題ではないかと感じる。</p> <p>また、タブレット端末等の機器活用そのものが目的化しないよう、教育的効果の評価・検証を行う視点も忘れてはならないと考える。</p>	<p>各校では、校務支援システムによる成績処理や学籍管理、宿泊行事等における保護者説明会のオンライン視聴方式の導入、アプリ活用による各種データや児童・生徒情報の共有等、校務D X化が着実に進み、業務改善・効率化が図られているところです。引き続き、先進的な取組事例を共有しながら、業務の質的向上につなげてまいります。</p> <p>学習におけるタブレットの活用については、あくまでも学習のねらいを達成するための手段であることの周知徹底を図り、「I C T活用ハンドブック」に示した効果的な活用例をもとにした授業実践の成果検証を通して、学びの充実に資する活用へと高めてまいります。</p>
<p>施策 12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり</p> <p>アウトリーチ推進事業を活用している事例が多くあるが、学校や施設が地域に開かれたものにするためにも、生涯学習人材を掘り起こすとともに、利用回数の拡大を図るなど、教育現場が活用しやすい体制を検討するよう希望する。</p>	<p>生涯学習分野における人材の掘り起こしは、学びを循環する生涯学習社会の構築につながるものと考えていることから、令和7年度より、新たに「苫小牧市生涯学習人材バンク」を設置し支援してまいります。</p> <p>その一環として、アウトリーチ推進事業にも積極的に活用してまいります。まずは人材の掘り起こしと実施件数の増に向け、広く周知に努めたいと考えております。</p>

<p>施策13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり</p> <p>文化芸術の振興は、教育の根幹の一つであると考えられる。義務教育段階から、生涯にわたり音楽や美術を愛好する児童生徒の心情を育む必要がある。</p>	<p>現在、第2次苫小牧市民文化芸術振興推進計画の施策により事業を展開しており、義務教育段階からの取組としては、生のオーケストラ演奏を感じてもらい豊かな感性を育む「札幌親子しおさいコンサート」や学校などへ芸術を届ける「アウトリーチ推進事業」などを行っております。</p> <p>ご指摘のとおり、生涯にわたり各種取り組みを着実に進めることで、その成果が図られるものと考えていることから、文化芸術の振興に向け、引き続き各種取組を継続してまいります。</p>
<p>施策13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり</p> <p>生涯学習人材バンクを設置することはとても良いことだ。多くの市民の方々に活用していただくよう情報発信していただきたい。</p> <p>また、質の高い学びの環境は大事で、個人の趣味だけで終わることなく市民自らがバンクを育てていければ良いと考える。</p> <p>既に窓口は生涯学習課にあるようだが教育一般（家庭教育・社会教育など）の分野では登録数が少ないようなので増やして欲しい。</p>	<p>令和7年度に新設する「苫小牧市生涯学習人材バンク」については、生涯学習に関わる専門的な知識や経験、技能などを有している指導者を募集、活躍の場を提供することで、市民の多様な生涯学習活動の支援と推進を目的とします。</p> <p>苫小牧市文化団体協議会加盟・所属団体や社会教育施設、新聞掲載など広く市民へ周知し、人材の掘り起こしにも努めたいと考えております。</p>
<p>科学センター</p> <p>科学センターの利用者数が順調に増加していることは科学やものづくりに対する興味関心の高まりを示している。</p> <p>今後の取組として、幼児期の発達に応じた新鮮な展示やワクワクする科学体験、空想広がるプラネタリウム視聴を通して、科学への芽生えと興味関心を高めることに努めてほしい。</p> <p>苫小牧の子どもたちの身近で充実した見学先として選ばれる施設の拡充を望む。</p>	<p>科学センターでは、現在未就学児を対象とした取組として、プレスクール工作教室の開催、木製のおもちゃで遊べる専用スペースの設置、幼稚園・保育園等を対象としたプラネタリウム特別番組の投影を実施しております。</p> <p>今後、乳幼児の科学に対する興味関心をさらに引き出し、就学後も科学センターの利用につながるよう、ニーズの把握に努め、体験活動・教室活動・展示物の充実および新たな事業の実施を進めてまいります。</p> <p>また、未就学児のみならず、あらゆる子どもたちが継続して科学を学べるように生涯学習機能の充実を図り、身近な見学先として必要とされる施設にしていきたいと考えております。</p>

○その他

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>「学力」「ICT活用」「外国語教育」「特別支援教育」などに関して、評価と課題がしっかりと整理されており、客観性がある印象を受けた。</p> <p>あえて言うならば、「目標値」に対する達成度の乖離が大きい項目については、評価に対する対策の具体性がもう少しあると良い。</p>	<p>児童生徒の読書時間や授業の話し合い場面におけるICT活用率等、目標値と達成度の乖離が大きくなっている項目については、要因の分析とともに、児童生徒の実態や教員の指導レベルの実情把握に基づいた改善への具体的なアプローチを検討し、示してまいります。</p>
<p>例えば、達成目標に対する進捗状況を「グラフ化」、「達成率」の可視化等などすると、市民にとってより一層分かりやすいものになるのではないかと。</p> <p>また、各取組に対して「予算規模」や「人的配置」等の情報も追記することで、事業の実現性や持続性を判断する材料となるのではないかと。</p>	<p>達成率については客観性及び統一性に欠ける部分もあり、昨年度から廃止して「目標値」に対する「現状の数値」を記載しております。</p> <p>「予算規模」や「人的配置」等の情報については、各取組と連動しない、あるいは把握ができないものもあり、記載は難しい状況でございますが、ご指摘のとおり、より一層分かりやすい内容とし、各取組の評価に必要な情報を掲載するなど、引き続き検討してまいります。</p>
<p>市長の基本政策である「こどもどまんなかの町づくり」をテーマに、子育て支援策を具体化してほしい。</p> <p>特に子育て拠点の形成に当たっては、ヒト、モノ、カネのバランスに配慮し、未来につながる施策を具体化していただきたい。</p>	<p>市長の基本政策では、令和7年度から小学校入学児童を対象に入学祝い給付事業を開始するなど、新たな子育て支援策を実施しているところです。</p> <p>また、子育て拠点の形成については、ソフト、ハード両面において子育て環境の充実が図られるよう、市長部局と連携してまいります。</p>
<p>公立保育園や学校・幼稚園やこども園、児童館や留守家庭児童会、放課後デイサービスなどの子育て支援の現場の様子や教育環境、教師や保育士、指導員などの人的資源の姿を視察することも必要。</p>	<p>教育委員が直接学校を訪問し、子どもたちの様子を見学したり、教職員から学校運営について話を伺い、意見交換する機会を設けておりますが、幼児教育をはじめ、保育や福祉機関などの状況を把握することも重要と考えるので、今後、教育委員の活動を含め、留意してまいります。</p>
<p>具体的な取組を記載するなど、わかりやすい表現にできると良い。</p>	<p>具体的な取組内容の記載や、教育用語については注釈をつけるなど、可能な限り伝わりやすい記載に努めてまいります。</p>

【その他御意見】

- ・施策2について、苫小牧市が掲げる「Double Port City」を踏まえ、ALTの活用や国際交流事業などを通じて、国際理解や異文化理解を深めている。
- ・施策3について、道徳教育や人権教育が功を奏している。
- ・施策8について、目標を達成している数値もあり、教育の成果が表れているものと思うが、そのことが将来、行動として発展していけばよいと考える。
- ・「具体的な取組」「推進指標」「評価」「今後の取組」が明確に記述されており、全体的に適切な構成であると評価いたします。なお、トピックスや写真の活用、成果の数値化もあり、可視性が高くなるよう、工夫されている印象を受けた。

資 料 編

目 次

資料1	会議の開催状況	1
資料2	教育委員の活動状況	3
資料3	規則等の制定状況	4
資料4	苫小牧市教育委員会の組織(令和6年度)	4
資料5	令和6年度予算及び決算の状況	6
資料6	苫小牧市学校教育推進計画【概要版】	7
資料7	苫小牧市第六次生涯学習推進基本計画【概要版】	8
資料8	苫小牧市教育大綱(2023年度～2027年度)	9

資料1 会議の開催状況

開催日	付議案件など
4月26日(金)	<p>【議案】苫小牧市立大成小学校改築基本計画(案)について</p> <p>【議案】苫小牧市教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部を改正する規則について</p> <p>【議案】苫小牧市教育委員会職名等に関する規則の一部を改正する規則について</p> <p>【報告】教職員の事故に関する処分について</p> <p>【報告】教育委員会職員の人事異動に係る協議について</p>
5月30日(木)	<p>【議案】令和7年度から使用する教科用図書等の採択について</p> <p>【議案】明治天皇行幸跡 石碑の移転計画について</p> <p>【議案】令和6年度教育費補正予算について</p> <p>【議案】苫小牧市美術博物館協議会委員の任命について</p> <p>【議案】苫小牧市公民館運営審議会委員の委嘱について</p> <p>【議案】苫小牧市社会教育委員の委嘱について</p> <p>【議案】苫小牧市図書館協議会委員の任命について</p> <p>【議案】苫小牧市文化交流センター運営協議会委員の委嘱について</p> <p>【議案】教育委員会職員の処分について(諮問)</p>
6月28日(金)	<p>【議案】苫小牧市学校給食共同調理場運営審議会委員の委嘱について</p> <p>【報告】令和5年度苫小牧市学校運営協議会(コミュニティ・スクール)中学校区実践事例集について</p> <p>【報告】部活動地域移行に係る中学校区保護者説明会の開催について</p> <p>【報告】教育委員会職員の人事異動に係る協議について</p> <p>【報告】ゼロカーボンに向けた取り組みについて</p>
7月26日(金)	<p>【議案】令和6年度 教育委員会点検・評価報告書(案)について</p> <p>【議案】令和6年度 苫小牧市統一学力検査の結果と考察について</p> <p>【報告】令和5年度の指定管理者モニタリング総合評価結果について</p> <p>【報告】部活動地域移行に係る中学校区保護者説明会の開催状況について</p>
8月21日(金)	<p>【議案】令和6年度 教育委員会点検・評価報告書について</p> <p>【議案】令和6年度全国学力・学習状況調査結果の考察と公表について</p> <p>【議案】新苫小牧市史の編集方法等の変更について</p> <p>【議案】勇払小・勇払中学校の義務教育学校移行に向けた検討について</p> <p>【議案】令和7年度使用教科用図書の採択について</p> <p>【議案】令和6年度苫小牧市文化賞・文化奨励賞の選考について</p> <p>【報告】令和5年度苫小牧市学校給食会会計決算について</p>
9月27日(金)	<p>【報告】都市教育委員会連絡協議会定期総会(分散会)について</p> <p>【報告】第7回市議会定例会の一般質問について</p> <p>【報告】教育委員会職員の人事異動に係る協議について</p> <p>【報告】令和7年度 教育費予算(概算要求)について</p>

開催日	付議案件など
10月25日(金)	【報告】校長会及び教頭会からの文教施策要望について 【報告】移動式クーラー導入の効果検証について 【報告】教育委員会職員の人事異動に係る協議について
11月22日(金)	【報告】学校給食費の改定について 【報告】財産の取得(追認)について 【報告】令和6年度 教育費補正予算について 【報告】教育委員会職員の事故に係る処分について(報告) 【報告】教職員の人事異動に係る内申について
12月20日(金)	【議案】苫小牧市立小中学校規模適正化地域プラン【勇払地区】(案)について 【議案】教育財産の活用について 【報告】教職員の事故に関する処分について 【報告】新市長への課題レクチャーについて
1月24日(金)	【議案】苫小牧市美術博物館協議会委員の任命について 【報告】苫小牧市立小中学校規模適正化地域プラン【勇払地区】について 【報告】令和6年度 教育費補正予算について 【報告】教育委員会職員の人事異動に係る協議について 【協議】令和7年度教育行政執行方針(素案)について
2月7日(金)	【議案】令和7年度苫小牧市学校教育推進の重点について 【議案】苫小牧市文化会館の取り扱いについて(案) 【議案】令和7年度教育行政執行方針(案)について 【議案】令和6年度教育費補正予算について 【議案】令和7年度教育費予算について 【報告】令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について
3月28日(金)	【議案】苫小牧市教育委員会事務局の組織等に関する規則及び苫小牧市教育委員会職名等に関する規則の改正について 【報告】教職員の人事異動に係る内申について 【報告】教職員の事故に関する処分について 【報告】教育委員会職員の人事異動に係る協議について 【報告】令和7年度苫小牧市学校給食会会計予算について

資料2 教育委員の活動状況

※教育長を除く

活動日	活動内容	参加委員
4月11日(木)	定例校長会議	全委員
4月28日(日)	苫小牧市育英会・交通遺児育英会理事会	岡田委員
5月30日(木)	令和6年度胆振管内教育委員会連絡協議会総会	佐藤委員
6月29日(土)	美術博物館特別展オープニングセレモニー	佐藤委員 岡田委員 高橋委員
7月18日(木)	苫小牧市立樽前小学校新校舎内覧会	佐藤委員 齋藤委員 岡田委員
7月30日(火)	第19回全国高等学校選抜アイスホッケー大会開会式	佐藤委員 齋藤委員 岡田委員
8月22日(木) ～8月23日(金)	令和6年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	全委員
10月6日(日)	第76回市民文化祭短歌大会	佐藤委員
10月13日(日)	第50回市民文化祭短歌大会	佐藤委員
10月26日(土)	苫小牧市立糸井小学校開校50周年記念式典	佐藤委員 齋藤委員 岡田委員
11月3日(日)	苫小牧市文化賞・文化奨励賞表彰式	全委員
11月9日(土)	苫小牧市立泉野小学校開校40周年記念式典	齋藤委員 岡田委員 高橋委員
11月12日(火)	苫小牧市青少年表彰式	齋藤委員
11月30日(土)	苫小牧市中学生主張発表会	佐藤委員
1月12日(日)	令和7年苫小牧市はたちを祝う会	全委員
1月24日(金)	HISAE日本語学校視察	佐藤委員 齋藤委員 岡田委員
1月24日(金)	第1回総合教育会議	佐藤委員 齋藤委員 岡田委員
2月6日(木)	胆振管内教育委員会委員研修会	全委員

資料3 規則等の制定状況

①規則

公布番号	件名	公布年月日	施行年月日
(令和6年) 第4号	苫小牧市教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部を改正する規則	R6.4.26	R6.4.26
第5号	苫小牧市教育委員会職名等に関する規則の一部を改正する規則	R6.4.26	R6.4.26
(令和7年) 第6号	苫小牧市教育委員会事務局の組織等に関する規則及び苫小牧市教育委員会職名等に関する規則の一部を改正する規則	R7.3.28	R7.4.1

②訓令(委員会)

制定なし

②訓令(教育長)

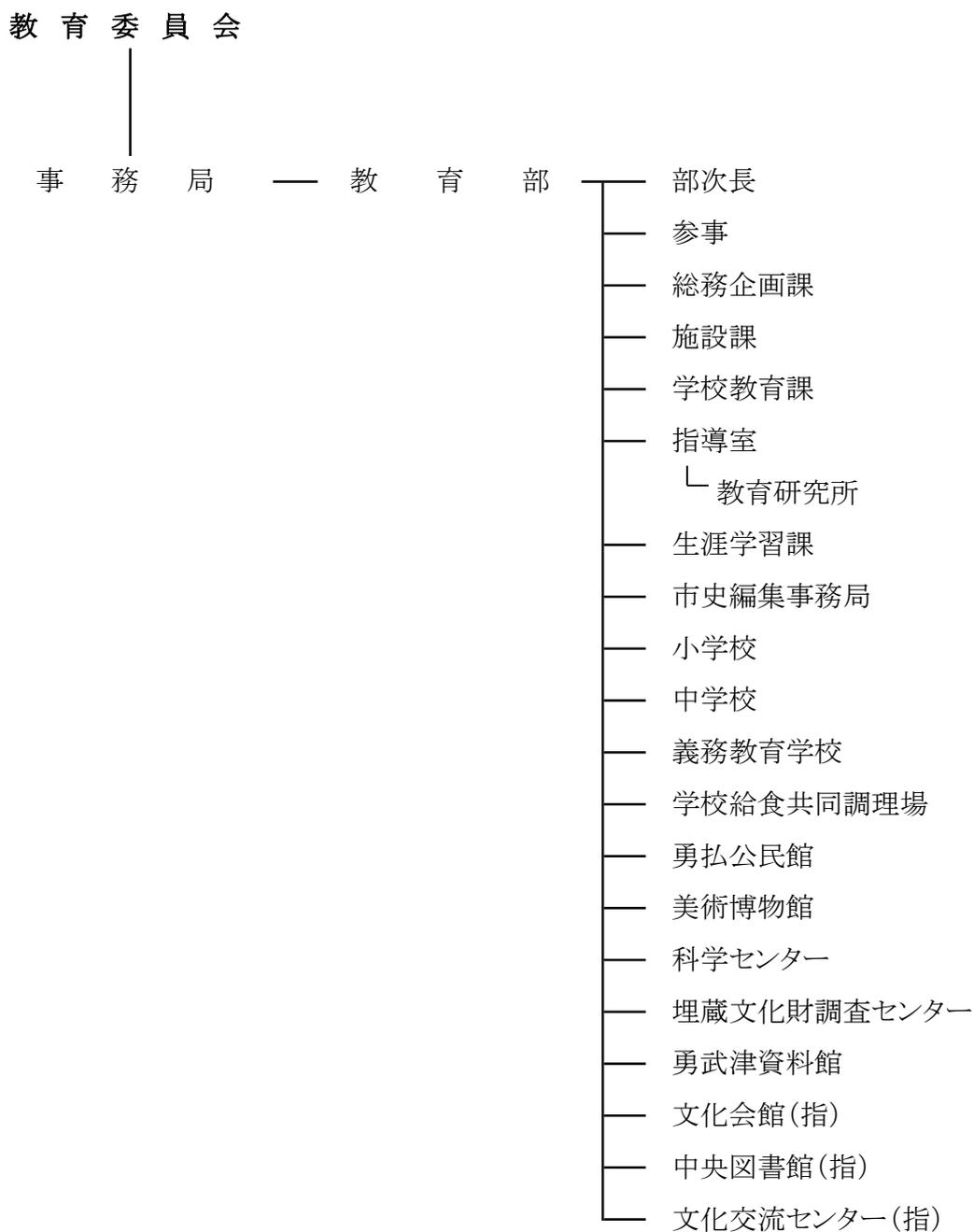
制定なし

資料4 苫小牧市教育委員会の組織(令和6年度)

(1)教育長及び委員

職名	氏名	職業	任期	就任年月日
教育長	福原 功	—	R4.4.1 ～ R7.3.31	R4.4.1
教育長職務代理者 ※H30.10.20から	佐藤 郁子	大学教授	R5.10.3 ～ R9.10.2	H16.10.3
委員	齋藤 智子	幼稚園職員	R3.11.22 ～ R7.11.21	H29.11.22
委員	岡田 秀樹	弁護士	R4.10.20 ～ R8.10.19	H30.10.20
委員	高橋 憲司	会社役員	R6.10.3 ～ R10.10.2	R2.10.3

(2)事務局組織(令和7年4月1日現在)



(指):指定管理者制度導入施設

資料5 令和6年度予算及び決算の状況

(単位:円)

	令和6年度予算額	令和6年度決算見込額
10款 教育費	6,698,572,563	5,341,254,678
1項 教育総務費	1,877,014,000	1,684,096,093
1目 教育委員会費	5,099,000	4,797,950
2目 事務局費	3,701,000	2,932,681
3目 教育指導費	380,838,000	374,332,515
4目 給食共同調理場費	863,382,000	691,135,852
5目 諸費	623,994,000	610,897,095
2項 小学校費	3,643,568,563	2,647,951,421
1目 学校管理費	904,173,000	784,708,426
2目 教育振興費	207,218,000	197,571,719
3目 学校建設費	2,532,177,563	1,665,671,276
3項 中学校費	641,840,000	494,281,763
1目 学校管理費	415,661,000	370,560,432
2目 教育振興費	126,259,000	123,721,331
3目 学校建設費	99,920,000	0
4項 社会教育費	536,150,000	514,925,401
1目 社会教育総務費	50,672,000	46,188,461
2目 社会教育施設費	372,769,000	371,974,075
3目 公民館費	16,619,000	16,435,643
4目 科学センター費	24,993,000	24,120,701
5目 美術博物館費	71,097,000	56,206,521



生きてはたらく力を身に付けた15歳の苫小牧っ子

方針1	社会で生きる学びの推進
1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 主體的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 学力向上に向けた検証改善サイクルの確立
2 これからの時代に求められる資質・能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> I C T の活用による個別最適で協働的な学びの実現 外国語教育の充実と国際理解教育の推進
3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の推進・人権教育の充実 いじめ防止の取組の充実
4 体力向上・健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校における体力・運動能力向上の取組の推進 食育の推進など学校、家庭、地域が連携・協働した生活習慣の確立
5 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 連続性のある多様な学びの場の整備 各学校における特別支援教育の充実

方針2	学校・家庭・地域の思いをつむぐ体制の確立
6 学校段階間の連携・接続の推進	<ul style="list-style-type: none"> Tomakomai All-9 の促進 幼稚園、認定こども園、保育所及び高校等との連携
7 不登校児童生徒への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学校づくりと不登校児童生徒への支援の充実 学校、家庭、地域が連携、協働した不登校対策の推進
8 学校と地域の連携・協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭、地域の教育力を生かした学校づくり 社会との連携・協働による教育活動の構築
9 学びのセーフティネットの構築	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習機会の提供や就学支援の充実 関係機関との連携による相談機能の拡充
10 教育環境・学校施設・設備の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校規模や地域の実情に応じた望ましい教育環境の整備 環境、健康、福祉に配慮した地域拠点としての施設の整備 働き方改革の推進



ICT活用の推進!

■ 計画の目的
本市の子どもたちが未来の社会の担い手として成長するための義務教育のさらなる充実、魅力ある学校づくりを推進する計画

■ 計画の位置づけ
生涯学習推進基本計画と合わせた教育基本法に基づく「教育振興に関する計画」



SDGs、ESDの推進!
ゼロカーボンシティへの挑戦!
子どもたちが「考え、行動し、未来の苫小牧をつくる力」を身に付ける取組を各施策で横断的に実施します。



苫小牧市教育委員会

全ての人が学び続けることで活躍できる社会の実現

基本施策Ⅰ 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支える人づくり

1 個性とライフステージに合わせた学びの機会の充実

- (1) 子どもの健やかな発達と学びの支援
- (2) 青少年の豊かな心を育む学びの支援
- (3) 成人の学びの継続・学びなおしの支援
- (4) 長寿社会のニーズに合わせた学びの支援
- (5) 障がいのあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援
- (6) 世代に関わらずすべての市民への学びの支援

■ 計画の目的

市民が生涯を通じて学び続けるための環境整備を推進する計画。（平成3年に1次計画を策定）

■ 計画の位置づけ

学校教育推進計画と合わせた教育基本法に基づく「教育振興に関する計画」

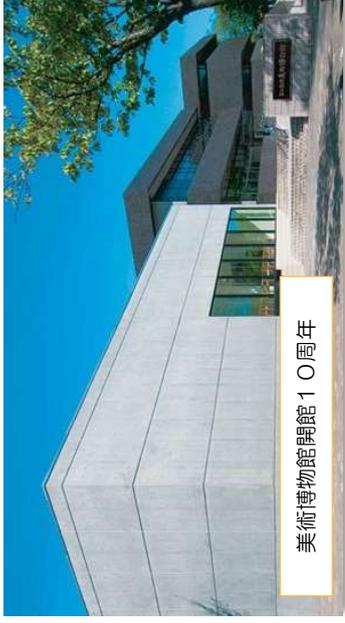
苫小牧市教育大綱

「未来の社会をつくるひとづくり」

教育振興に関する計画

学校教育推進計画

生涯学習推進基本計画



美術博物館開館10周年

基本施策Ⅲ 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

- 5 文化・芸術に触れる機会、環境の充実
 - (15) 生涯学習関連施設機能の充実
 - (16) 音楽やアートに関連する事業の展開
 - (17) 文化財の積極的な活用

基本施策Ⅱ いつでも、誰とでも学べる環境づくり

2 学習グループや団体・企業との連携

- (7) 団体・企業と行政の連携と発展
- (8) 協働による学習の推進
- (9) ボランティア活動の啓発と支援

3 ICTの活用による学習環境の充実

- (10) 学習支援情報の収集・提供
- (11) 情報の共有化による学習支援ネットワークの展開

4 地域・市民、高等教育機関と連携した協働体制の充実

- (12) 学校と地域の連携、地域活性化による学びの支援
- (13) まちづくりへの参加促進と学習の成果を生かした市民参画
- (14) 高等教育機関の講座や教室との連携



苫小牧市教育委員会

苫小牧市教育大綱 2023-2027 年度

基本理念

未来の社会をつくるひとづくり

「教育の目的はひとづくりであり、今日の教育が子どもたちの未来をつくり、未来の社会をつくる」という教育の重大な使命を自覚し、教育の振興と発展に向けて取り組む。

教育推進の指標

未知なるものに果敢に挑戦する自立の精神にあふれ、
連帯と共生の豊かな心と活力にあふれる人を育てる。

自立

グローバルな視野で活躍する子どもたちが、主体的・対話的に深く学び、「自立」の精神あふれる「生きる力」を身に付ける。

連帯

未来を担う子どもたちを育てる学校・家庭・地域が、それぞれの思いをつむぎ、「連帯」の心をもって活力あふれる人材を育てる。

共生

生涯学習の主体者である市民一人一人が、世代や性別を超え、人権を尊重し、活力あふれる「共生」の社会をつくりだす人材を育てる。

13の基本施策

社会で生きる学びの推進

- 1 確かな学力の育成
- 2 これからの時代に求められる資質・能力の育成
- 3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成
- 4 体力向上・健康教育の充実
- 5 特別支援教育の充実

学校・家庭・地域の 思いをつむぐ体制の確立

- 6 幼児教育の充実と学校段階間の連携・接続の推進
- 7 不登校児童生徒への支援の充実
- 8 学校と地域の連携・協働の推進
- 9 学びのセーフティネットの構築
- 10 教育環境・学校施設・設備の充実

すべての人が学び続け 活躍できる社会の実現

- 11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり
- 12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり
- 13 文化・芸術・スポーツがいつも身近にあるまちづくり